

中村大三郎画塾『塾誌』について ―翻刻と解題―

Transcript (1) : The Journal of NAKAMURA Daizaburo's Private Painting School

福田 道宏

FUKUDA Michihiro

奥村 一郎

OKUMURA Ichiro

高村 佳子

TAKAMURA Keiko

中村大三郎画塾『塾誌』について — 翻刻と解題 —

Transcript (1) : The Journal of NAKAMURA Daizaburo's Private Painting School

福田道宏

FUKUDA Michihiro

奥村一郎

OKUMURA Ichiro

高村佳子

TAKAMURA Keiko

キーワード：中村大三郎、日本画、画塾、京都画壇、美術教育

解題 — 中村大三郎について —

中村大三郎（一八九八～一九四七）は、一八九八年（明治三一）京都市上京区下立売小川で染色関係の仕事をしていた父 中村安吾と母 こととの間に長男として生まれた。京都の地を活躍の場とし、戦後まもなく、一九四七年（昭和二二）嵯峨野有栖川の自邸にて四十九歳で没した、生粋の京都の画家である。また、弟中村道太郎（一九〇二～五七）も、帝展・新文展に出品する画家であった。

一九一一年（明治四四）に京都市立美術工芸学校（現京都市立銅駝美術工芸高校）に入学、一六年（大正五）卒業。卒業制作《柔らかき日影》（京都市立芸術大学芸術資料館蔵）は、学校買上げとなる。その後、京都市立絵画専門学校（現京都市立芸術大学）に進み、一八年に第十二回文展に《懺悔》で初入選。翌一九年、同校本科を主席で卒業。卒業制作《花を持てる聖者》（京都市立芸術大学芸術資料館蔵）も学校買上げとなり、研究科に進む。同年、文展は帝展

にかわり、第一回帝展に《双六》が入選、翌二〇年には第二回帝展で《静夜聞香》が特選となる。初入選から二六年の第七回帝展まで連年入選となる。その間、二二年の第四回帝展で《燈籠大臣》（耕三寺博物館蔵、原題：燈籠のおとぎ）が再び特選となった。

二四年に京都市立美術工芸学校教諭となり、翌二五年には二十七歳で京都市立絵画専門学校助教授に任じられ、三六年に教授となる。二六年、西山翠嶂の長女都由子と結婚、この年の第七回帝展では帝展委員となり、代表作《ピアノ》（京都市美術館蔵）を、妻をモデルに描いて、帝国美術院賞候補となった。二八年の第九回帝展では、女優入江たか子をモデルに《婦女》（ホノルル美術館蔵）を描く。三二年、第十三回帝展で審査員をつとめる。同年秋頃、弟子たちの主導で画塾創立と旗揚げ展開催が決まり、翌三三年六月に中村大三郎画塾を正式に設立し、大丸京都店で第一回展を開催した。三四年、大札記念京都美術館開館記念の京都市総合展に《女人像》（京都市美術館蔵）を出品、三五年には第一回京都市美術展で審査員をつとめる。三六年、昭和十一年文展招待展

の《読書》（東京芸術大学美術館蔵）が政府買上げとなる。また、この頃から、能の演目に主題を得た作品が増え始める。三八年、三九年の第二回、第三回文展では審査員をつとめ、《弱法師》、《三井寺》（東京国立近代美術館蔵）を出品。《三井寺》は政府買上げとなった。

一九四〇年代に入ると、大三郎の体調が思わしくない時が増え、中村大三郎画塾では三九年の創立七周年記念展を京都に先立ち東京でも開催したが、翌年は京都のみでの開催となり、翌四一年は大三郎の体調不振を理由に塾展は中止となった。その後、小規模な塾展は開催されたが、戦局の悪化と終戦の影響で、大規模な塾展は開催されないまま、大三郎は、自邸にて療養中の四七年九月十四日に、四十九歳の若さでこの世を去った。

（高村佳子）

中村大三郎画塾（一九三三〜四七）の教育指導方針について

中村大三郎画塾は、京都市立絵画専門学校で教鞭をとっていた大三郎のもとへ、同校在校生・卒業生らが集まり、自然発生的に生まれた画塾である。一九三二年秋頃に画塾創立の機運が高まり、大三郎はそれを受けとめる形で発足させた。

画塾の教育指導方針を知る上で重要な資料として、一九三八年七月二十一日から四六年六月十二日までの塾の活動を記録した『塾誌』がある。本資料には、大三郎の言葉が書き留められているのも重要である。

例えば四一年十一月十二日に行われた研究会では、第四回新文展に塾から出品した十七名のうち、中本英夫ただ一人しか入選しなかったことを受けてのことか、「先生より、今一層勉強せざれば画壇の落伍者となる憂あり、と御戒めの御話あり。一同恐縮、拝聴す」といった記事がある。また、翌四二年の第五回新文展では塾員十四名が出品、作品搬入翌日の十月三日に全出品塾員が大三郎邸に指導の御礼に行った折の大三郎の言葉が興味深い。「種々御懇話承る。殊に文展のみに頼る事も情勢上不利なれば、来年より希望者は院展にも出品せられてはとの御話にて、先生の進取的な御考に感激す」とある。一般に院展になじみが薄いとされる京都にあつて、このように自分が所属する官展にさほどこだわらない点などは、たしかに進取的で柔軟な発想と言えるだろう。

実際には、四三年の再興第三十回を最後に院展は翌年から美術界の統制を受

け開催できなくなるので出品者はなかったようだが、院展出品も視野に入れた指導からは、教育者としての大三郎の度量の大きさがうかがえる。

画塾の運営は比較的民主的な手続きを踏み、塾員の自主自発に任された部分も多いようである。人物画の大三郎に師事しながら、風景画を描く弟子たちが多く、それを意外と感じる評者もいれば、大三郎の懐の深さとする評者もいた。こうした大三郎の指導に関しては多くの評言がある。それらに一貫しているのは自由な教育指導方針だという認識である。例えば、三九年の中村大三郎画塾創立七周年記念展覧会にあつての「中村大三郎氏の指導方針はあく迄も各自の個性を尊重し其の独自の画境を築かしめることに在りといはれてゐる。従つて、奇矯極端の画風に走らない限り塾生は全く恵まれたる自由な立場に於て芸術に精進することが許されてゐるのであるが、それだけに往往にして往々に於て幾多の画塾や結社の如く塾主或は指導者の好みに支配されるが如きことは全然ないといつてよい」という評などである。

展覧会評に「不思議」とも書かれるように、塾員たちに師風を受け継ぐ者は意外に少なく、本人の志向と個性を伸ばす自由な指導方針であつたことを塾誌の記録から確認することができる。

（高村佳子）

中村大三郎画塾『塾誌』について

『塾誌』は、大三郎の長男中村実氏が所蔵する「中村大三郎画塾関係資料」のうち的一点で、縦野入原稿用箋、袋綴じ、手稿本で、現状で百七十六丁、所々に別紙を貼り込んだり、綴じ込んだりしてある。その概要については、奥村・福田「中村大三郎画塾の研究」³でも或る程度紹介したが、その際にも述べたとおり、錯簡があり、また落丁もある。ここでは、書誌的な事項を中心に、その錯簡の復元について簡略に述べる。

既述のとおり、『塾誌』は一九三八年七月二十一日から四六年六月十二日までの記事を含むが、表紙に続く一丁から十九丁までと、末尾の百五十七丁から百七十六丁までは、それぞれ一続きで、この間に欠落はないものと考えられる。つまり、二十丁から百五十六丁の間に、内容的に見て連続しない部分が複数あり、これを復元しないことには『塾誌』を通読することが出来ない。

そこで、便宜上、一丁から十九丁までをAとし、以下、一続きと思われるこ

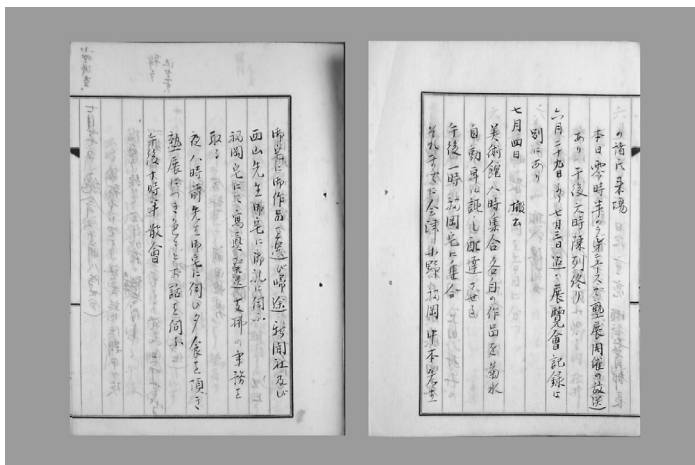


図1 中村大三郎画塾塾誌LとN

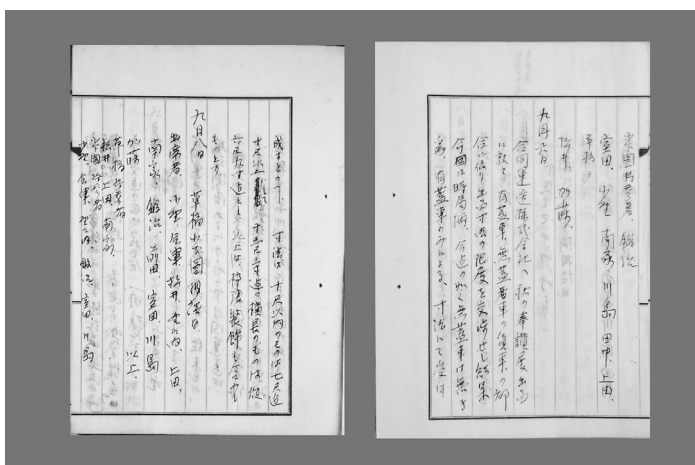


図2 中村大三郎画塾塾誌NとC

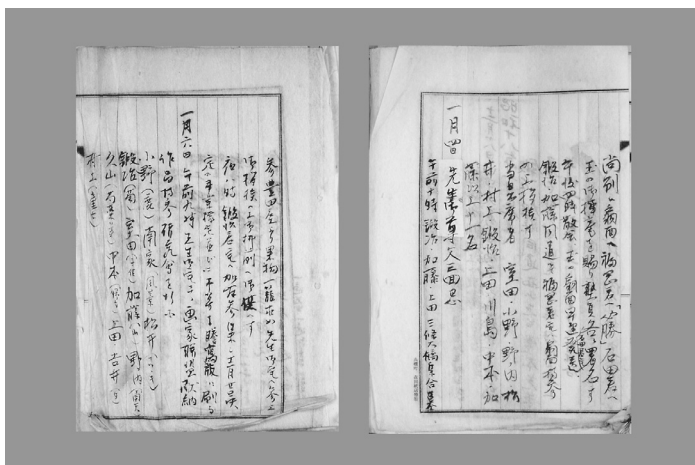


図3 中村大三郎画塾塾誌JとF

とに記号を振ることにする。Bは二十丁から二十五丁、Cは二十六丁から五十丁、Dは五十八丁から六十二丁、Eは六十三丁、Fは六十四丁から六十五丁、Gは六十六丁、Hは六十七丁から六十九丁、Iは七十丁、Jは七十一丁から百五丁、Kは百六丁から百三十四丁、Lは百三十五丁から百四十丁、Mは百四一丁から百四十九丁、Nは百五十丁から百五十六丁で、百五十七丁以下がOである。表「中村大三郎画塾『塾誌』の現状」にまとめたので参照されたい。なお、翻刻の担当者も表に明記した。

まず、Aは一九三八年七月二十一日から始まって同年十二月十七日の記事のあと、半丁白紙を挟み、三九年一月一日で再開、三月二十六日まで二続きだが、ここは連続するものと考えられる。次に最も早いのは、年末詳七月九日に始まるMであろう。七月九日が日曜日とあり、また、「東京及び京都の塾展につき先生より色々御話あり」、「塾展記録の整理をす」などの記事から、東京・京都で塾展を開催した三九年の記事と判明する。三月二十七日から七月八日まで

の日誌は現時点では見当たらず、落丁がある。十二月二十三日までの記事があり、これに続くと考えられるのが、四〇年一月一日からのBである。二月二十八日までで、東京・京都での塾展の会期決定が記される。ただし、これも既述のとおり、実際には京都のみの開催となった。

次に三月二十日からのLは五月二十八日になって東京展開催中止の決定が記録され、これがBに続く記事だろう。京都展は開催され、その搬出日七月四日の記事が文章の半ばで終わっている。具体的には末尾は「それまでに会津・小野・福岡・中本、先生」であり、これに続きそうなのは、冒頭「御宅に御作品を運び帰途、新聞社及び西山先生御宅に御礼を伺ふ」で始まるNである(図1)。その八月二十日条には「東京美術館より昭和十六年度上半期間に於ける展覧会申込の件に就て、問合せ状来る」とあり、これが四〇年の記事であることが明らかである。このNも九月六日の途中で「今回は時局柄、今迄の如く無蓋車は無き為、有蓋車のみによる寸法にて受付」と途切れるが、Cの冒頭が「成すと

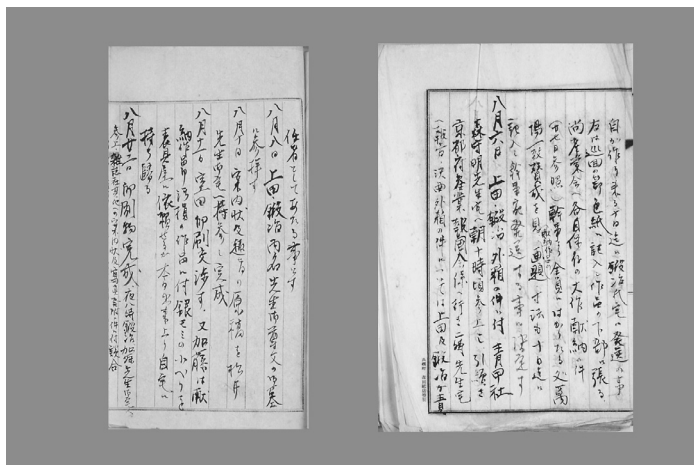


図4 中村大三郎画塾塾誌EとK

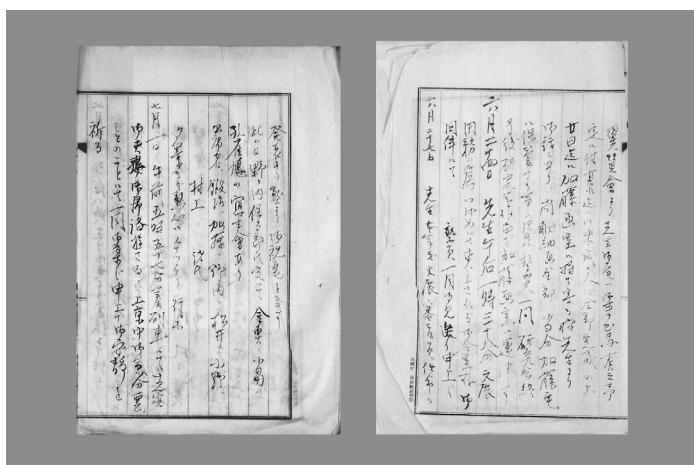


図5 中村大三郎画塾塾誌IとD

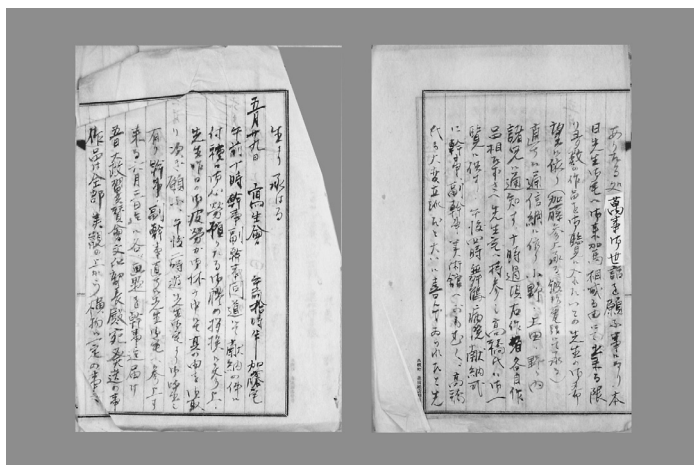


図6 中村大三郎画塾塾誌HとG

の事。寸法は十尺以内のものは七尺迄、十尺以上にして十三尺三寸迄の横長のものは従六尺九寸迄とし」分に続くだろう(図2)。またNで出てきた塾から叡山ホテルへの塾員作品貸与の話の続きもある。

Cは比較的丁数も多く、四〇年十二月までと四一年一月一日から七月二十五日まで切れ目なく続く。その間、四一年一月五日条に大三郎の父逝去の記事がある。よって、八月一日から始まり、同月十三日条に「先生厳父様初盆」とある丁がこれに続くだろう。この間に落丁があるかは不明。Jも長く、四一年末までと四二年の一年間、さらに「先生御尊父三回忌」とある四三年一月四日の途中まで一続きである。その四三年一月四日は末尾が「午前十時、鍛冶、加藤、上田、三条大橋集合、墓」とあり、Fの冒頭「参、豊田屋より果物一籠求め先生御宅へ参上」がその続きだろう(図3)。Fは短く続く一月六日条のみで、この後、落丁があるだろう。

残るD・E・G・H・I・Kだが、前欠で年月日不詳の記事に続く八月八日

に始まるKは半ばあたりで四四年一月一日の記事があり、さらに同年十二月六日条が途中で終わるので、落丁はあるものの、これがOの直前である。Kの冒頭は「任者としてあたる事とす」であり、Eの末尾の八月六日条「外箱の件については上田及鍛冶が責」とつながる(図4)。Eは八月五日の記事の前に年月日不詳の部分があるが、月日から見て、八月一日条で終わるDのあとに来るものと考えられる。D・Eは現状でも続くが、この間に落丁があるかは不明。Dの冒頭は「発表あり。塾より御祝電を発す」とあるが、これはIの末尾の「先生、本年度文展審査員任命の」の続きだろう(図5)。Iは作品を列挙して優作を決めていることから研究会の記事だが、Gが六月十二日の研究会出席者を列挙して終わることから、その記事の続きと考えるとよい。

Gの冒頭、年月日不詳前欠の「生より承はる」は、五月二十八日条の末尾が「喜んでいられたと先」で中断する日の続きである(図6)。

これらは日付の並び順、および内容から見ても四三年から四四年にかけての

記事と見て、違和感はない。日は五月九日の記事の前に前欠で年月日不詳の記事があるが、Fの一月六日条の続きとは考えにくい。この間にも落丁がある。

ここまでを整理すると、

A ↓ 落丁 ↓ M ↓ B ↓ L ↓ N ↓ C ↓ J ↓ F ↓ 落丁 ↓ H ↓ G ↓ I ↓ D ↓ E ↓ K
↓ 落丁 ↓ O

となる。なお、この復元案を裏付けるものとして、用箋も参考になる。用箋は三種が認められ、丁の裏の左下端に無印のもの(①)、同じく「高槻町 森田紙店特製」(②)とあるもの、「厚口 松 印」とあるもの(③)に分けられる。右のA・M・B・L・N・C(一九三八年七月から四一年七月)は①で、J・F・H・G・I・D・E(四一年八月から四三年八月)は②、K・O(四三年八月から四六年六月)は③である。つまり、記録の時期によって、用箋が異なるのである。

今回は一九四二年までの翻刻を収め、四三年以降は次回に譲ることとする。

(福田道宏)

凡例

- 一、かな遣い等は原文のままとしたが、旧字等は現在通用のものに改め、句読点を補った。また、誤字・当て字、意味の取りづらい箇所には、当該箇所の右傍に「」内に補注した。
- 二、現状の錯簡と考えられる部分は、別表の復元案に従い、入れ替えて掲載し

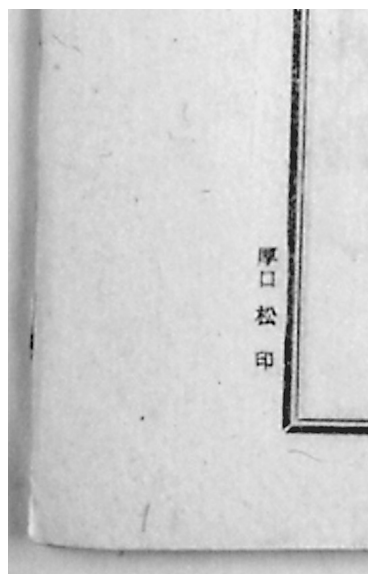
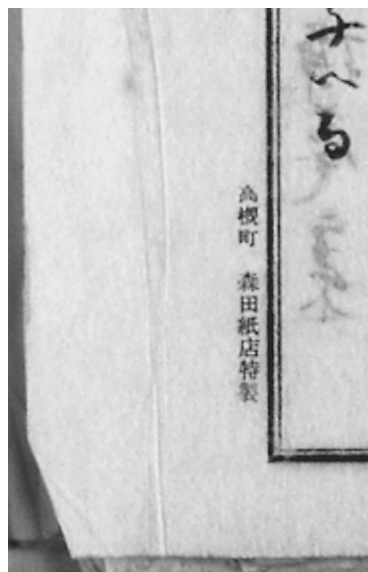
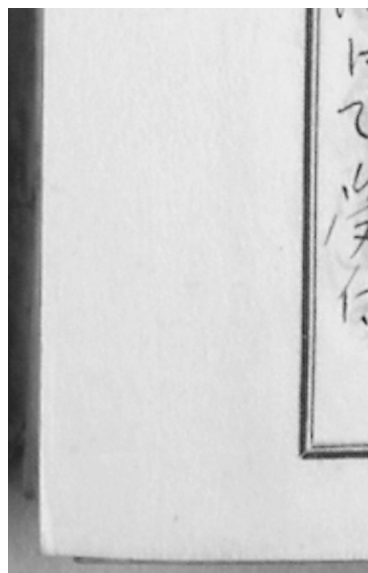


図7 用箋のちがい(上から①②③)

た。なお、解題のとおり一続きと思われるかたまりごとにA～Oの記号を振り、その冒頭に【】で括ってその記号を挿入した。
三、不適當と思われる表現も、当時の時代状況を考える上で貴重なものと考え、原文のままとした。

翻刻 — 一九三八年から四二年 —

〔表紙〕

塾誌

中村塾

〔A〕

〔本文〕

昭和十三年

担当

会津勝巳

佐々木啓陽

七月廿一日 木曜日 於会津宅

昨年度第一回試作展記録

本年度第二回〳 記録

〳 第二回塾展 記録

大丸 第一回塾展画集(塾保存)

第二回塾展・第一回試作展・第二回試作展ノ画集（塾保存）

ハ従来未完成ノマ、ナリシヲ今度完成可致事トナリ、本日、会津・野々内・佐々木・加藤参集ノ上、整理ニトリカ、ル。加藤夜参集。内第一回試作展記録ハ昨年秋、野々内・佐々木ニ於テ草稿出来致シ居リシ為、直ニ浄書ニカ、ル。夜遅クマデ熱中スルモ完成ノ見込仲々遠遠ナリ。又、福岡ヨリ会津ニ引継ギタル会計之整理ノ上、更ラニ此期ノ加藤ニ引継ル会計ハ其間ニ展覧会ニ回分ヲ含マル、ニヨリ其ノ整理モ亦繁雜ナリ。深更散会。

七月廿二日 金曜日 於会津宅

前日ニ引続キ本日モ終日没頭スルモ明日中ニ完成覚束ナキ為、中本・田中ヲ明日更ニ参加スル様、通知ヲ出ス。展覧会ノ新聞紙上記事モ二部宛保管ノ計画ナリシモ欠部多ク、二部ノ完成ハ至難トナル。次回ヨリ更ニ此点ニ留意ス可ヲ覚ユ。今日モ深更迄從事ス。

七月廿三日 土曜日 於会津宅

本日ハ六人トナリテ鋭意完成ヲ急ゲルモ完成セズ。後日更ニ日ヲ改メテ完成スル事トシテ夕方打切ル。

全日 座談会 於先生御宅

出席者 田中・中本・佐々木・上田・野々内・小野・会津・加藤・松井・室田、十名

座談会係松井・田中ヨリ本期間ノ塾事業ニ関シ逐次、方法・準備ヲ決定スル事ヲ提案アリ。

第一、塾基本金拠金ノ方法

十二月第一日曜日ヲトシテ前回ノ如ク後援会ヲ開催スル事トナル。会費ハ一口参拾円。絵絹ハ今ヨリ各員二三枚（一枚四尺五寸トス）宛配布シ置キ一人五枚以上揮灑スル事トシ、総計百口ヲ標望スル事トス。尚、此ノ募集ノ中ニ、横物・屏風等ヲモ別ニ種別スル案モ出デタルモ種々至難ノ事項モアリ採用サレズ。

尚、先生ヨリモ此ノ後援会ニ御作品五点、外ニ式紙五葉御寄贈下サル事ニ御快諾アリタリ。

第二、塾展開催ニ付、イロ／＼説アリ

右後援会ニヨル基金ニ依ツテ、明春、塾展及試作展ノ開催ヲ決定ス。時局ヲ反影シテ一層緊張、努力スル事ヲ申合セタリ。

第三、名古屋展ニ付開催期日ヲ今ヨリ交渉決定セシムル事トス

第一希望 十一月中旬

第二希望 下旬

第三希望 上旬

尚、右名古屋松坂屋展ハ従来ノ制作本意ノ外ニ幾分第三者向キノ売レ易キモノヲモ交エテ実収入ノ上ニ一助タラシムル事ヲモ考慮ニ入レ堅物作品モ裱張化粧裱ヲ施シテ出品スル事ヲモ決メタリ。

第四、本年度文展出品画

下絵ノ先生御指導日ヲ定ム。

八月五日、十五日、廿五日、午后七時ヨリ先生御宅ニテ。

八月五日 於先生宅 夜七時

下絵相談日

野々内 小下絵、川嶋 ヶ、加藤 ヶ、カジ ヶ

会津、室田、田中、上田、久山、小野、佐々木

学校にて十日、廿四日午後二時より臨時に見て戴く事に決まる。

画会（塾後援画会）之下相談をなし、尚、野々内より画会ノ作品絵絹としてそれ／＼二匹を分配す。

来る十日は出品協会々議を美術館楼上にて開催さる、事となり、佐々木出席の筈なり。

名古屋松坂屋展にハ小品之出品の外ニ名古屋師団献納画作製して同時に会場にて陳列して一般に公開する議も附議されて可決す。

八月十五日 日曜日 夜七時 於先生御宅

加藤 草稿

上田、鍛冶、田中、小野、野々内、会津 以上 小下絵

佐々木、室田 ナシ

外に黒田 草稿

終って出品協会模様ノ報告、会津よりあり。

佐々木写生地より私用にて東上之折、東京美術館にて借用之件につき規約を調べたるを以て其等内容報告後、明春開催、東京進出之議につきいろいろ相談したるも、結局費用之件につき解決つげバ進出之様に大体決定せり。

其他、後援会につきても話ありたり。
先生よりビール之御馳走を頂く。

東京美術館へ更らに來年度上半期間之使用展覽会表を佐々木より請求して
参考に資する事となる。

本日、塾後援会趣旨を作り、先生に提示申上げ御訂正を乞ふ事とす。

八月廿一日 日曜日 夜七時 雨 於先生御宅

本日ハ所定以外に臨時に下絵相談日を御設け被下様御願す。

上田、野々内、室田、中本、加藤、松井、会津、佐々木出席

会後、新入塾希望者之件につき話をなす。

東京美術館へ請求中の本年度使用者一覽表送り來れるを以て、是れで議案
として種々協議せる。即決を不見。美術館へハ九月中旬中に申込みて十月
中に認可決定するとの事なるを以て、來月になり更らに一同会合して決定
する事となる。

佐々木八月末頃、家事之都合にて渡道する事となり、今月中にて塾務を整
理す。

八月十日 朝九時より夕七時頃迄、出品協会の議案（指定運送店之如何）につ
き会津出席す。

八月廿五日 夜七時 於先生御宅

野々内、川島、久山、会津、加藤、上田、小野、室田、佐々木出席

黒田臨席

久山、会津、加藤、佐々木 草稿なし

塾後援会之更正刷を先生に見て戴き、近日中出來の事となる。

東京進出の議につき更らに協議を重ね、結局、美術館に出席し、五月期し
て申込事と決定す。右につき、

第一希望

五月中旬、一週間、主階、第一・第二分区室

第二希望

五月上旬か下旬、全所

第三希望

第三・第四分区室

右之通り申込み事と決定す。

次に名古屋松坂屋の今秋展ハ

中村大三郎画塾秋季展覽会

と名称つける事とし、大阪之春の展覽会ハ春季展覽会と名称する事となる。

九月四日 於先生御宅 後七時

会津、野々内、田中、松井、小野 草稿

久山、上田 写生

加藤、室田 なし

右、先生の御指導終つて後、黒田氏の入塾につき協議を重ね、入塾と決す。

九月十五日 後五時 於美術館事ム所

第二回文展出品協会委員協議あり、会津出席。古川運送店の入札極如安き
ため古川之指定と決る。

午后十時頃、先生より会津・佐々木へ御電話あり。西村五雲先生御危篤マツ
との事。兩人入、相憎不在にて帰宅後知り、兩人共同導して京都府立病院

に見舞ひたり。稍小康との事にて午前一時頃、先生と同車にて帰宅す。朝
三時頃、先生より電報ありて、会津・佐々木、五雲先生之御死去を知り、
再び病院に弔問す。既に西村先生遺骸ハ本宅に移されたり。御宅へ伺ひ、
朝六時頃帰宅す。

九月十七日

西村先生之密葬にて会津、塾を代表して四時に参詣す。

九月十一日 福岡玉僊かねて応召入営中之処、軍務成績優等の処、体之休養必
要とて本日帰休せり。（任官職停止）官候にも受験パスす。

九月廿一日 晴 水曜 美術館事務所階上

八時より文展出品画を見て戴く事となり、先生九時半頃御出席。中本・上
田・佐々木の外、出品作品全部集る。福岡帰休後の新作品も持ちよる。

本年度出品画の塾より発送委託運送店につき塾員之一致せる態度を表明す
る為、従来ノ関係あるも合同運送店ハ指定に非ざるを以て古川に一同出品
する事に決し、此事、佐々木より為念、古川合同へ通告する事とせり。後
刻、古川運送店及合同運送店より來館あり。他塾よりハ自由意志として各
自に於て運送店に委託する事を聞き、前項の塾の申合せを中止して、当塾
も自由意志とせり。

九月廿四日付 日刊美術通信紙上に塾展の東京進出を大々的に掲載ありたり。

右ハ先日來決定して先頃、東京美術館長あて申込せる会場借用を報ずるものなり。

九月廿九日

放光堂石田信一氏長男死去の為、塾より花輪を贈る。十月三日、会津塾代表して弔問す。

十月五日 朝九時、西山翠嶂先生之御東上を会津、駅に見送る。全日、夜十時、山口華楊先生を京都駅に会津見送る。

十月八日 於塾 七時より

出品後、始めて塾員集る。高岡・川島の外、皆参集。今後之塾事業に対し一層熱意を強調して邁進する事を申合す。名古屋展、併て献画。塾後援会等諸般之準備を進む。東京美術館宛、評議員氏名照会する事とす。

黒田氏入塾後始めて之会席にて挨拶あり。福岡氏よりもいろく運入^{運入}當中之所感談ありたり。

十月十二日 文展入選者発表あり。

当塾より鍛冶一人にて甚だ淋しき結果となりたり。夜、会津・小野・野々内・佐々木、先生御宅に集りたり。

十月廿日 於加藤氏宅

午前中座談会。午後早々より文展出品制作品の互評をす。先生、午後三時頃御出席、各自御批評を仰ぎ、夕刻^{取立}参会。

十一月二日 午後六時より先生御宅にて

名古屋松坂屋小品展出陳作品、各自持参。先生の御覧を仰ぎ十時半頃より松坂屋京店へ搬入。

十一月三日

名古屋松坂屋展につき会津・野々内、松坂屋京都店にて中村氏と打合せをなす。会津・佐々木・加藤・野々内の作品、写真に撮る。

十二月三日 会津宅にて午後六時より

塾後援会の作品を持ち寄り仮巻に張り不足の色紙を揮毫す。

十二月四日 塾後援会、於八坂俱樂部

午前八時、全塾員出席。陳列その他の準備に午後一時頃まで多忙。一時頃より後援者多数来場。二時半頃より抽籤開始。抽籤に先きだち先生より後

援者諸氏に挨拶あり。午後四時半、盛会を先生始め塾員一同喜びつ、閉会す。閉会后、円山公園平野屋にて先生の御厚意による夕食を一同供にす。九時半散会。

十二月八日 会津宅にて午後六時より

塾後援会入会者へ礼状の封筒を書き、其の他を整理す。

十二月十三日 会津・福岡同道

事始めの御挨拶に先生の御宅、及び西山先生の御宅に伺ふ。

十二月十七日 座談会、午後六時より

久山、室田、福岡、松井、鍛冶、会津、野々内、小野、黒田、田中、中本出席

〔半丁白紙〕

昭和十四年

一月一日

午前九時、先生御宅に全塾員出席。一同新年の御挨拶を述べた上、書初めにかゝる。十時、黙禱の後、国歌合唱。好例の抽籤により先生御試筆の玉、

黒田・川島両君に当る。正午前、散会す。

一月二十日 研究会 午後一時

福岡、野々内、会津、室田、加藤、小野、黒田、松井、上田、田中、久山作品 野々内(海ねこ)、小野(残雪風景)、加藤(南天)、久山(山茶

花にヒタキ)

優作

小野「七点」

加藤「六点」

野々内(一点)

◎相談会

今年度より一年間の優作点数の多い者を表奨する事に決定。

十三年度優作

一月 会津・佐々木・加藤(二点)

二月 加藤・田中・会津(二点)・川島

五月 加藤(二点)・会津

六月 加藤(二点)・田中・会津

七月 加藤・野々内

○今後、役員の変更も一月にきめる事に改正す。

○第三回塾展事項の役割決定。

○塾展に公募作品を加へる。

○名称を中村大三郎画塾創立七周年記念展覧会と決定。以上。

五時半頃終了。引きつゞき六時半より花見小路新三浦にて先生より御馳走給はる。十時半散会。加藤欠席。この席にて、塾展の内覧日、公募作品の受付の相談あり。

一月七日 会津・佐々木、合同運送店と東京塾展の件につき交渉。同夜六時半、

先生御宅へ会津・佐々木・野々内・加藤・福岡集合。塾展東京・京都開催について先生と御相談す。十一時散会。

二月十九日 研究会 午後一時

会津、野々内、加藤、鍛冶、小野、福岡、川島、室田、松井、黒田

作品 会津(二点)、野々内(一点)、加藤(二点)、鍛冶(二点)、小野

(二点)、福岡(二点)、川島(二点)、黒田(一点)、以上十一人

優作 川島 雪の山風景 (投票八票)

加藤 藪のある風景 (七票)

小野 南紀風景 (七票)

福岡 南紀風景 (五票)

先生より洋画と日本画の相違及び其の持ち味を生かす事について御話あり。午後六時閉会。

二月廿五日 座談会 午後六時

会津、加藤、野々内、福岡、小野、上田、黒田、松井、田中、室田、中本出席

塾展準備、其の他の件につき種々相談あり。

三月十一日 午後六時

会津、野々内、加藤、福岡、田中、久山、上田、黒田、中本、以上九名出席

先生御用事のため八時半より御出席。それまで東京展に付き一同相談す。

小下絵 加藤、福岡、野々内

三月廿六日 午後一時集合

大阪松坂屋展の小品廿四点集ル。

会津、小野、野々内、室田、福岡、黒田、松井、田中、加藤、上田、中本、以上十一名出席

〔後欠〕

〔M〕

七月九日 日曜日 午後七時、先生御宅集合

加藤、中本、福岡、久山、野々内、会津、鍛冶、松井、小野、黒田、田中、室田、上田、以上出席

東京及び京都の塾展につき先生より色々御話あり。

今年度の塾役員を左記の様に定めらる。

幹事 小野

副幹事 松井、中本

研究会委員 室田

座談会委員 田中

会計 加藤

午後八時より先生の御厚意により嵐山温泉にて慰労会を催す。十時半散会。

七月二十七日 木曜日 午後七時、先生御宅集合

座談会及び小下絵相談

会津、小野、松井、室田、田中、中本、上田、福岡、黒田、以上出席

上田、黒田 小下絵

文展出品画の小下絵・草稿は八月より毎週木曜日に見ていたゞく事に定められたり。

八月一日 火曜日 午前七時半、小野宅集合

小野・松井・中本同道にて先生御宅に中元の御挨拶に伺ふ。終りて西山先生御宅にも御挨拶に伺へり。

八月三日 木曜日 午後七時、先生御宅集合

小下絵・草稿相談日

会津、田中、福岡、上田、野々内、松井、加藤、中本出席

小下絵及び写生 上田、野々内、会津、加藤

陸軍大臣より塾及び各自に猷納画に対する感謝状を頂く。全時に陸軍省恤

兵部古田中尉殿宛、礼状を差出す。

八月五日 土曜日 午後七時、田中宅集合

上田、黒田、松井、田中出席

塾展記録の整理をす。

八月九日 水曜日 午後七時、松井宅集合

小野、会津、加藤、福岡、上田、黒田、室田、松井、田中、中本出席

明年度塾展開催に付き下相談す。各自、色々と意見を述べ、十時半散会す。

開催希望者多数あり。

八月十日 木曜日 午後七時、先生御宅集合

小下絵・草稿相談日

会津、小野、加藤、福岡、室田、黒田、鍛冶、田中、中本、以上九名出席

各自の小下絵の他、上田、草稿をみていたゞく。

終りて塾展開催について塾員一同の希望、意見を先生に申述べ。十時散会す。

八月十七日 木曜日 午後七時、先生御宅集合

小下絵・草稿相談日

会津（小下絵）、野々内（小下絵）、松井（小下絵）、田中（小下絵）、小野

（小下絵）、上田（草稿）、加藤（草稿）、中本、以上八名出席

八月二十四日 木曜日 午後七時、先生御宅

小下絵・草稿相談日

会津、鍛冶、加藤、野々内、上田、黒田、以上 草稿

小野、福岡、松井、以上 小下絵

八月卅一日 木曜日 午後七時、先生御宅

小下絵・草稿相談日

小野、松井、野々内、田中、室田、鍛冶、以上 六名 草稿

中本 小下絵

加藤

九月七日 木曜日 午後七時、先生御宅

小野、黒田、中本、室田、福岡、田中、以上 草稿

会津、加藤、松井、上田

九月十日 日曜日 午後七時、先生御宅

草稿相談日

黒田、小野、福岡、室田、以上四名、草稿を見て頂く。

九月廿八日 木曜日 午前八時、美術館集合

出品画の下見

室田、会津、田中、黒田、加藤、小野、野々内、鍛冶、福岡、松井、増田、

中本、出席

作品十一點。各自、先生よりいろくくと御注意をいたゞき、正午早々散会

す。

十月五日 木曜日

西山先生、審査の為、御東上。午前十時三十五分。小野・会津・野々内・

室田・松井・福岡・中本、以上七名、京都駅に御見送りす。

午後十時十五分の列車にて中村先生御出発。小野・野々内・田中・松井・

福岡・鍛冶・室田・上田・中本、京都駅に御見送りす。

十月十七日 火曜日

午前九時四十五分の列車にて先生、御帰京。塾員一同、京都駅に御迎へす。

午後八時、先生御宅に一同集り、色々と御話を伺ふ。来年度の塾展につき

相談す。尚、本年度文展の塾よりの入選者は左記の通り。

会津、野々内、小野、田中、松井、加藤、上田、伊藤

十一月

研究会 先生御宅

黒田、福岡、小野、加藤、田中、南家、上田、野々内、松井、会津、鍛冶、

室田

優作 南家《黄昏の風景》

他に鍛冶《花鳥》《風景》一点づ、出品

尚、南家作品は帰還後、始めての出品なり。

十二月二日 午後七時、小野宅

前・現幹事、野々内、松井、小野、福岡、中本、出席

来年度後援画会に付き相談す。方法、印刷物の原稿及び役割等。

十二月三日

中本、先生の御宅に参上。昨夜、現・旧幹事にて相談せし後援画会の事項

につき言上す。会則等につき御相談す。

先生より後援画会、場処を京都ホテルにしては如何かとの御言葉あり。

十二月十三日

午前九時、福岡宅に小野・松井・中本集合。先生御宅、及び西山先生御宅へ事始めの御挨拶に参上す。それより後、中村先生と共に京都ホテルに赴き、後援画会の場所などを見る。

十二月二十三日 午後六時、先生御宅集合

研究会及び後援画会相談

松井、小野、前田、加藤、南家、田中、鍛冶、久山、中本、上田、室田、野々内、会津、福岡出席

作品 南家

加藤《月》《山》

小野

松井

優作 南家(九票)

小野(十二票)

加藤《月》(七票)

加藤《山》(四票) 以上四点

他に 松井(一票)

研究会後、後援画会用絹式紙を各自に頒つ。

〔貼紙で以下二行抹消の跡あり〕

十二月二十日 午後六時、研究会、先生御宅

【B】

昭和十五年

一月一日

午前九時 先生御宅に全塾員出席。幹事小野、塾員を代表して新年の御挨拶を述べ。黙禱して国家の隆盛、皇軍将士の武運長久を祈る。先生御試筆の玉を松井頂く。一同書初を終り、正午前散会。

一月二十日 午後六時、研究会、先生御宅

上田、鍛冶、松井、野々内、小野、加藤、田中、南家、福岡、会津、室田、以上出席

優作 加藤(十一票)

松井(六票)

二月二日 午後七時 小野宅集合

小野、会津、前田、福岡、松井、加藤、野々内、上田、南家、田中、中本、以上十一名出席

他に放光堂主人に御出席して貰らふ。後援画会に付き相談す。画会の頒布作品は入会者の作者指定により頒布する事に定め、先生の御作品は景品として抽籤する事に決定す。

二月五日 午後七時、後援画相談日、小野宅集合

会津、室田、小野、田中、前田、川島、加藤、野々内、福岡、増田、中本、出席

後援会当日の下準備等の相談あり。

二月七日 正午

小野・松井・中本、三人にて京都ホテルへ行き、ホテルの松尾氏に会ひ、当日の打合せをする。会場は三階の西側広間を使用する事に決定。林貸物店に来て貰らひ、当日の設備を頼む。尚、南側の日本間つきの部屋、西南隅の部屋等も借用、休憩室とし、日本間にて席上揮毫をする事に決定。当日の入会者には紅茶・ケーキを出す事にす。

二月十日 午後六時、先生御宅集合

小野、田中、野々内、会津、加藤、上田、福岡、室田、南家、前田、川島、松井、村上、鍛冶、中本出席

後援画会の準備。

先生の御作品をいたゞく。抽籤番号符を塾員に渡す。当日の会計を中本に決定。先生より何かとご注意を承り、十一時半散会す。

二月十一日 晴天 後援画会当日

午前九時までに塾員全部、京都ホテルに集合。

先生、正午、御出席。

先生御出席まで、会場の設備、全て終る。

午後一時頃より入会者多数御出席、三時より抽籤。先生御作品《百中の図》は四〇番に当る。

午後五時散会。

午後六時より会津・小野・野々内、

加陽宮若宮殿下の御前に席上揮毫す。三十分間にて終了。ホテル支配人大塚氏の御好意により夕食を御馳走になる。尚、放光堂主人井上氏・大畑氏に午前中より出席して貰らひ、準備・受付・席上揮毫等に一方ならぬ御厄介になる。

二月十二日

小野・中本同道にて放光堂・後素堂へ御礼に伺ふ。

二月二十二日 午後七時、小野宅集合

会津、小野、前田、上田、室田、加藤、南家、田中、村上、中本出席

塾展の案内状名簿の整理を行ふ。十一時解散。

二月二十八日 午後六時、研究会、先生御宅

小野、田中、上田、前田、室田、鍛冶、南家、会津、村上、野々内、松井、加藤、中本

作品 加藤 山

南家 山のある風景

村上 芸者

南家 風景

優作 加藤 山

南家 山のある風景

村上 芸者

南家 風景

塾展の東京会場、及び京都の開催日、決定す。

東京 六月十一日夜陳列

十二月より十八日まで開催

京都 六月二十八日陳列

二十九日より七月三日まで開催

〔欠落あるか〕

【一】

三月廿日 研究会、午後六時

室田、福岡、田中、南家、加藤、小野、野々内、松井、村上、中本、鍛冶
作品

南家 風景・野二点、松井 風景一点、加藤 風景三点、村上 雨景一点、福岡 雪景一点、野々内 鳥一点、小野 風景二点、室田 子供一点、中本 娘一点

優作

加藤 大原風景 得票 (9)

比叡山 (7)

雨 (6)

南家 休息 (7)

野を帰る (7)

村上 雨景 (6)

小野 村 (5) 以上

研究会終了後、塾展の小下絵及び準備に付き相談。下絵相談日は、

四月第一、第二、第四土曜

五月第一、第二土曜

三月二十九日 相談日、午後六時

会津、小野、松井、上田、南家、福岡、村上、田中

案内状の形体、費用等の件につき相談する。官制葉書では余り粗末なので

白い私製葉書にする。奉祝会寄贈画に付き相談。

四月六日 塾展相談日、午後六時

野々内、会津、小野、松井、室田、南家、上田、村上、前田、川島、田中

草稿 小野、野々内、南家、上田、松井

小下絵 村上(写生)

ポスターの件、福岡より電話にて電気局にては今年の十二月迄申込、既にメ切られたる由なるも市の方へ交渉してユウツウ出来る予定の報告あり。

合同運送店田辺氏との交渉、なるべく方外の大作を避けられたいとの申込ありし由。

奉祝会寄贈画の件、相談、決定す。

四月十三日 相談日、午後六時

会津、小野、福岡、加藤、南家、田中、室田、松井、村上、野々内出席

小下絵 会津、田中、福岡

草稿 加藤、野々内、村上、松井

九時より展覧会相談に移る。

四月二十七日 相談日、午後六時

室田、野々内、会津、松井、加藤、小野、前田、村上、中本、鍛冶

小下絵 前田

草稿 会津、中本、村上、鍛冶

大毎美術展に付いて各自意見あり。

五月四日 相談日、午後六時

小野、松井、野々内、加藤、田中、村上、中本、室田

草稿 野々内

小下絵 田中

展覧会開催発表は先生の御体の調子、少し悪くこ、二、三日見合わせる事にする。

五月十一日 相談日、午後六時

野々内、小野、川島、室田、上田、前田、南家、鍛冶、村上、会津、田中、松井、中本、加藤

小下絵 川島

写生 松井

草稿 室田、田中

小下絵・草稿を見て頂きて、八時過より展覧会開催の相談に移る。

五月十八日 相談日、午後六時

小野、野々内、会津、加藤、南家、松井、上田、福岡、室田、村上、田中

草稿 室田

小下絵・草稿 福岡

東京展に付き再び考慮すべき事を先生より御話あり。各自意見を出す。大体、今回は先生の御病氣にて中止した方がよいとの意見多数なるも、名目の点、又、之迄の計画の挫折を思はれて、尚二、三日考へて見ると云はれ、この上は先生に御一任して散会。

五月廿九日 相談日、午後六時

会津、野々内、前田、村上、石田、中本、加藤、福岡、小野、松井、田中、南家

草稿 石田、松井、前田、加藤

写生 南家

東京展中止に決定。

五月三十日

午前九時、松井・小野・中本、小野宅へ集合。京日・日出・同盟・朝日・毎日新聞社へ挨拶に廻る。

六月十五日 午後七時

先生御宅へ全員集合。塾展相談。

加藤、南家、田中、上田、村上、野々内、松井、会津、室田、小野、中本出席

草稿 村上、小野、南家

案内状の封筒を各自に分つ。

六月二十一日 塾展下見、於美術館

午前八時、美術館に集合。塾展の下見、及び各自代表作の写真撮影をなす。小野、会津、野々内、松井、加藤、南家、室田、鍛冶、田中、福岡、上田、村上、中本、前田、由里本、増田

先生に各自、作品の御批評を伺ふ。三時散会。

六月二十八日 搬入陳列日

午前十時、美術館に集合。午後、先生御出席、陳列にかゝる。

美の国吉副禎三、京日辻本和兵衛、及び写真班日疋重亮、瀬谷教育部長の諸氏来場。

本日零時半のラジオニュースで塾展開催の放送あり。午後六時、陳列終り。六月二十九日より七月三日迄の展覧会記録は別にあり。

七月四日 搬出

美術館八時集合。各自の作品を菊水自動車に託し配達させる。

午後一時、福岡宅に集合。それまでに会津・小野・福岡・中本、先生【N】御宅に御作品を運び帰途、新聞社及び西山先生御宅に御礼を伺ふ。福岡宅にて写真発送。支払の事務を取る。夜八時前、先生御宅に伺ひ、夕食を頂き、塾展につき色々とお話を伺ふ。午後十時半、散会。

七月廿七日 総会（午前八時卅分）

塾幹事小野より塾展、並に任期中の挨拶有り。続いて、会計加藤の決算報告有り。次期幹事、其他役員、先生より発表、任命せられる。

幹事 小野踏青（続任）

副々 室田秀太郎

会計 前田典男

研究会主任 会津勝己

補佐 南家有吉、以上

前期には副幹事二名有りたるも一名にて用足れる為、今回は一名とす。尚、
塾展の際は、展覧会委員を設けて完備を期す事に申合す。研究会委員に重
点を置き、二名とす。

京都ホテル経営による叡山ホテルより塾員の小品作、一時借用の件、先生
迄申入れ有りし為、研究会出品せる小品作を全ホテルに貸す事にす。先生
より塾展に付、各塾員の作品個々に付、御懇切なる御指導有り。昼食を賜
る。午後三時、辞去す。先生、近く府立病院へ御入院せらるゝ趣なり。

当日出席者 会津、鍛冶、中本、久山、野々内、小野、加藤、田中、福岡、
松井、川島、室田、前田、村上、以上十四名

〔欄外頭注〕

小野担当
幹事決定す

八月十日

芸術新聞、美術と

八月一日

幹事小野踏青・副幹事室田秀太郎兩人、塾を代表して西山先生宅、中村先
生宅へ中元の御挨拶に廻る。第三高等学校に歴史教授藤田元春先生訪問。
御聖蹟に関して御指導賜る。直後、自宅へ御礼に行く（八百文果物）。

中村先生、其後、御病氣御宜しく無く、明後日、府立病院に御入院の由に
承る。何卒、一日も早く御全快遊ばれ、御健康をおとり戻しに成られんこ
とを切に御祈り致す次第で有る。

御聖蹟の作品は、八月中旬迄に各自完成する様、又、叡山ホテルへ塾員作
品一時貸し与へる件に付、来る六日夕より全ホテルより、出品者のみ招待
する件に就て、通知出す。

〔欄外頭注〕

幹事決定

八月二日 中村先生、府立病院二入院セラル。

塾展の写真を掲載せる各雑誌に礼状出す。芸術新聞、美術と趣味、画室、

芸苑、日本美術、美之國、詩と美術、以上。

〔欄外頭注〕 中村先生御入院

八月六日

叡山ホテルへ左記の諸氏の作品貸与す。

上田 (志摩風景) 村上 (雨)

加藤 (大原風景) 由里本 (舞妓)

小野 (風景) 久山 (花鳥)

松井 (風景) 前田 黒田 (雪の日)

会津 (風景) 田中 (婦女)

福岡・鍛冶兩氏の作品は寸法少し大なる為、次回にゆづる事、先方より申
入れありたり。夕刻、招待会（ホテル）に左記の諸氏出席。加藤、会津、
久山、小野、村上、松井。当日、中居常務より挨拶あり。今後、国際観光
都市宣伝用エハガキのスケッチ、亦是、欧州航路汽船内の装飾画等、御願
ひ致す際は宜しくとの挨拶有りき。久し振りに清涼の一夕を楽しむ。

八月五日、小生と室田氏、兩人にて（塾代理）、府立病院に中村先生御見
舞申上ぐ。先生の御容体、追々と御快方の由、御喜び申上げる次第。塾よ
り八百文の果物を御見舞に持参す。

八月十二日

御病氣の為、御入院中の先生には御経過宜しく、予定よりも早く御退院遊
される。併し今後は自宅にて尚、御養生專一に御過し遊される御様子で有
る。御全快を祈る哉、切。

〔欄外頭注〕 中村先生御退院

八月十七日 紀元二千六百年奉讃展覧会小下図相談会有り。出席者、左の如し。
会津、松井、野々内、田中、村上、南家、小野、室田、中本、以上
小下図持参の方

会津 六曲一双 蓮花

野々内 片双 青鷺

松井 十二尺一六尺 溪流に猿

今後の相談日は朝より初める事に先生より仰せ出さる（毎週日曜日午前八
時より十時迄、先生宅にて）。引続き座談会を催し、午後十時、散会す。

〔欄外頭注〕 紀元二千六百年奉祝塾展御聖蹟作品を再び先生より御批評

賜り四、五点は尚、加筆する事と成る。

八月廿日 東京美術館より昭和十六年度上半期間に於ける展覧会申込の件に就て、問合せ状来る。中村先生に電話にて御伝へす。来る廿五日の相談日に塾員一同と相談の上、決定することにす。

八月二十二日 紀元二千六百年奉祝展の催しとして、既に発表せられたる各塾員の聖地の作品は、一応、本日迄に会津氏宅迄持ち寄り、裏打等全部一様とし写真撮影の上、近日、幹事東上、奉祝会へ献納すること、す。本日、会津氏宅にて、右、裏打御厄介願ふ事と成る。作品、尚、二、三点集らず。東京美術館よりの塾展、来年開催の件に付、塾員一同と下相談する必要有り。来る廿四日午後七時より小野宅にて相談会する事、通知出す。

八月廿四日 塾展開催下相談、小野宅集會。
出席者 会津、田中、小野、南家、村上、上田、松井、室田
八月廿五日 先生宅、午前八時より
小下図及草稿相談日

出席者 会津、松井、田中、前田、小野、室田、加藤、鍛冶
草稿持参 加藤
小下図持参 小野、前田、鍛冶
塾展来年度開催は中止と決定す。
〔欄外頭注〕 来年度塾展は中止

八月二十七日 二千六百年奉祝会寄贈の作品、藤田元春先生に御足旁願ひ、作品に就て御意見を伺ひ、内二点(松井・会津)の分は、尚、一応考へて頂く事とする。
八月二十九日 中村先生より大丸十円切手頂戴し、藤田先生宅へ御挨拶に参る。

小用主
九月一日 先生宅、午前八時より

小下図及び草稿相談日
出席者 室田、加藤、小野、南家、川島、田中、上田、松井、鍛冶
小下図持参者 鍛冶、室田、小野、南家、川島、田中、上田
草稿 〃 松井、加藤
九月六日

合同運送株式会社へ秋の奉讃展出品に就て、有蓋車・無蓋者車の貨車の都合に依り、出品寸法の限度を交渉せし結果、今回は時局柄、今迄の如く無蓋車は無き為、有蓋車のみによる寸法にて受付【C】成すとの事。寸法は十尺以内のものは七尺迄、十尺以上にして十三尺三寸迄の横長のものは従六尺九寸迄とし、以上は枠張裝飾も含めしものとす。

九月八日 草稿小下絵相談日
出席者 小野、会津、松井、野々内、上田、南家、鍛冶、前田、室田、川島、加藤、以上

草稿持参者 松井・上田・南家
小下図持参者 小野・会津・野々内・鍛冶・室田・川島
尚、本月二日に会津氏の聖蹟作品(血沼の海)、本月六日に福岡氏(難波崎)、書直しされたる作品の先生宅迄に届けられし分、一同拜見す。愈々東京行と決定。近日、室田・小野両名は全部の作品送りし上、東上する事とす。

○合同運送の経過報告の結果、従来の取引関係あるにか、わらず合同運送は不誠意の点多く、引いては大作出品者の作品寸法にも影響する事なれば、青甲社塾幹事小川翠村氏よりも助力あり、古河運送店に今秋の運搬万事依頼する事に決定。合同の寸法は当方の塾員の作品寸法によれば無蓋車の都合つかざる為、中止する事に決定す。古河運送店の寸法は横十八尺に縦七尺七、八寸迄は受取る事なり(貨車は無蓋車)。

九月五日 都ホテル福原工氏より書面有り
塾員の中に五名の方に尺八、乃至二尺の横物揮毫方依頼あり。先生の御指示を仰ぎし結果、過日、叡山ホテルに作品出品せし方にて夕食の会に出席せし方に依頼すること、なる。

九月十五日 午前八時
草稿相談会
出席者 会津、小野、室田、前田、松井、野々内、南家、鍛冶、川島
○本日より塾費は各月に致して二ヶ月分づつ集金、郵便にて徴収することにする旨、会計より報告有り、決定す。目下、国家新体制にて個人的都合は廃して全体的に助け合ふ精神に依り、塾としてもこの意念の下に今後、御互ひ注意いたす様との先生の御訓示有りたり。

○御聖蹟作品寄贈の件は中村先生より東京文部省学芸課長本田氏と御交渉を煩し、期日決定の上、東上すること、成る。

○文部省、昨年度運賃補助金、塾宛、塾員全額送金ありしも、これは塾会計に寄付致すこと、す。中村先生の方も頂戴する。去る九月十日、中村先生より東京行の為、金百円也御取り換賜り小野幹事、御預り致すと、す。

九月二十二日 小下図相談会

出席者 松井、会津、野々内、中本、村上、小野、鍛冶、南家、田中、室田、前田、増田

九月二十九日 小下図相談会

出席者 松井、小野、田中、野々内、会津、村上、室田
十月九日

京都出品協会主催にて岡崎美術館事務所に於て午前十時より奉祝展出品に付、古河運送店・合同運送店を招致して運送に付、詳細に亘り京都各塾代表者と相談し、非常時局の折柄、各塾は出品期日数日前に大体の出品数をまとめて運送会社にあらかじめ通知する事、出品メ切期日は十月十六日午後五時限りなれども一日にても延長出来る様、尽力せられたき様、依頼し、無蓋車等に就ても確実性をたしかめ、散会せしは午後六時。当塾より小野幹事出席す。大体に於て今迄の交渉の重複に過ぎず特に記録する事なし。

十月十一日 午前八時

岡崎勸業館に於て中村先生の御光来を煩して、奉祝展出品作品の御批評を仰ぐ。

出席者 会津、野々内、加藤、室田、村上、小野、田中、川島、室田、上田、南家、前田、増田、由里本、加藤、中本、鍛冶
散会午後三時。

十月十六日 搬入メ切

紀元二千六百年奉祝美術展出品者

会津 勝己氏	六曲一双	蓮
加藤 美代三氏	横十二尺縦六尺	ミタガ原高原
野々内 保太郎氏	横十二尺縦六尺	青鷲
鍛冶 照応氏	横九尺縦七尺	風景

中本 英夫氏 二曲一双 写真機

上田 道三氏 縦九尺横七尺 風景

小野 踏青氏 六曲一双 熊野牛

田中 久義氏 縦七尺横七尺 人物

松井 大浩氏 横十三尺縦六尺 猿

南家 有吉氏 縦五尺横七尺 風景

川島 洞氏 横十二尺縦七尺 浜木綿

室田 秀太郎氏 縦六尺横十三尺 生花

前田 典男氏 縦七尺横十尺 松

村上 安秋氏 縦九尺横七尺 人物

増田 光子氏 縦七尺横七尺 人物

伊藤 悠起子氏 縦 人物

由里本 景子氏 縦八尺横八尺 人物

合計十七点出品ス。

十月廿三日

室田氏・会津氏にて塾員出品小下図作成を煩す。室田氏・前田氏にて京都・大阪各新聞社へ奉祝会献納の件に付、通知して頂く。

十月二十四日

紀元二千六百年奉祝会に献納の予定にて制作中の作品、全部完成せし故、小野幹事・室田副幹事、作品携行し、中村先生を初め塾員諸氏の御見送りを受け、午後六時廿分、京都発列車にて東上す。

十月廿五日

午前六時過、東京駅着。午前七時半、本田学芸課長を自宅に訪ねしが、正午、文部省にて再び面会を約し、附近にて宿に着し、正午、本田課長を訪問す。それより同課長同道を煩し、内閣祝典事務局を訪問し、小野寺書記官・祝典事務局嘱託中澤丞夫氏の御厚意ある御尽力あり、祝典局局长歌田千勝氏に面会。奉祝会へ目録を納め、同時、作品も献納す。奉祝会長・副会長は多忙の為、面会むつかしき為、歌田局长より右委細取りついで頂く事に成る。先づ無事に作品納入せしは欣懐の至りなり。宿舎にて東京有力新聞・雑誌へ右経過報告す(速達便にて)。宿舎を午後六時に出で郵便局にて右書簡発送。京都中村先生宅へ御電話し右経過報告す。銀座千疋屋に

て果物五円也求め、折柄、奉祝展審査の為、本日夕、東京近松旅館に御着の予定に有る西山翠嶂先生に中村塾を代表して挨拶に参上すれども未だ御入来の時間に関あり、宿の主人に依頼して辞去す。時に八時十分。午後十一時の急行にて帰京の途に着く。

十月廿六日

午前九時四十九分、京都駅着。中村道太郎先生を初め塾員諸兄の出迎を受け、一同にて中村先生宅訪問しに御伺し、種々経過報告、御礼言上して散会せしは正十二時過ぎなり。

○廿五日の新聞には大朝・大毎の本紙、並に支局、大阪時事等に相当大きく当塾の奉祝会に作品献納の件に付、発表有りたり。

○廿七日の新聞には、東京の各新聞、右全記事発表ありたり。

十月廿七日

東京・京都各美術雑誌へ献納作品目録、及び案内状発送す。

〔別紙薄美濃紙、ガリ版刷り貼り込み〕

奉祝二千六百年 聖蹟図

紀元二千六百年奉祝会へ寄贈

一、八紘一宇 中村大三郎

二、忍坂邑大室 小野踏青

三、日向襲久高千穂峯 加藤美代三

四、天香山 加藤美代三

五、菟田高倉山 川島洞

六、名草山 鍛冶照応

七、鳥見山中 田中久義

八、磐余邑 中本英夫

九、菟田川の朝原 南家有吉

十、畝傍山 室田秀太郎

十一、国見丘 村上安秋

十二、鶏邑 上田道三

十三、神武天皇陵 野々内保太郎

十四、紀国男之水門 松井大浩

十五、孔舎衛坂 前田典男

十六、難波之碕 福岡玉僊

十七、血沼海 会津勝己

十八、狹井河之上 久山青巢

〔以上別紙〕

十月廿九日

奉祝美術展覧会入選発表。小野・室田、会津氏宅に集合、午後八時。中村先生宅より電話有り。会津・室田・野々内・松井・村上、以上五名人選ス。早速、会津・室田・小野の三人にて各入選者に通知し、中村先生宅に御礼に参上す。竹内栖鳳先生・西山翠嶂先生・菊池契月先生へ御礼の電報を打つ。先生宅にて種々、御教訓賜り辞去せしは午後十二時前なり。

十月卅日

室田・小野、兩人にて西山先生宅へ塾を代表して御礼の御挨拶に参上す。

十月卅一日

都ホテルへ電話して、尺八横物三十円也にて塾員の中六名、作品揮毫の上、納める事とし、十一月中に手渡しを約す。各塾員に通知す。筆者松井大浩・会津勝己・村上安秋・小野踏青・久山青巢・上田道三、以上六氏。

十一月一日

祝展事務局中澤至夫氏より速達来り、東京日本橋高島屋サロン八階に於て、過日献納せし聖蹟及び伝説地作品の展覧会を十月三十日より十一月三日迄、開催せる由、通知あり。塾より御礼状発送す。

十一月五日

京都日々新聞社辻本氏より二千六百年奉祝会の決定に依る御聖蹟地の塾員揮毫の分の作品に就て、聖蹟の由来、並に写生地の感想文、新聞に掲載したき故、本月七日午前中迄、御とりまとめ下されしとの事。早速、右記に該当する作者に通知す。新聞掲載にかゝる感想文筆者 川島氏・鍛冶・田中・中本・上田・松井・前田・福岡・久山。

十一月 研究会、午後六時より

出席者 野々内・鍛冶・会津・室田・松井・加藤・南家・村上・田中・小野・前田

○優作 加藤 山

出品作者 加藤 風景山・蕨 二点

南家 風景(秋) 二点
村上 湯上りの女 一点
前田 藪・たきび 二点

総計七点出品

御聖蹟追加作品に就て今夏猷納せる分の中、奉祝会決定の御聖蹟の不足分を完全にする為、尚、指定地十ヶ所を追加し、前回揮毫せし作者の中、御聖蹟写生場所の決定洩れの分の作者十名により、今回、追加分を揮毫する事に決定す。追加分の写生場所、並びに筆者、左の如し。

〔裏半丁白紙、貼り込み別紙欠か〕

十二月十三日 事始めに付、小野・室田両幹事同道の上、中村先生宅へ塾員を代表して御挨拶に上る。時節柄、餅米不足の為、真綿を以つてこれにかゆ。西山先生も右同様にて御挨拶に参上せり。

十二月廿四日 研究会

出席者 中本・福岡・田中・田中・村上・南家・加藤・鍛冶・会津・野々内・前田・小野

出品作者 加藤 松風景・南紀の山 二点

南家 赤屋根の家・村 二点

村上 ビロード服の女 一点

小野 鳶 一点

総計六点

優作 南家 赤屋根の家・村 二点
加藤 松風景 一点

昭和十六年一月一日

午前八時四十分 先生宅集合

〃 九時 宮城遙拜式

幹事小野踏青、新年の御挨拶申上ぐ。中村先生より新春に際して訓示有り。寄書「玉」一同にて揮毫す。

室田秀太郎、先生より横物紙本「玉」頂戴す。

出席者 会津、鍛冶、中本、久山、野々内、小野、加藤、田中、福岡、上田、松井、川島、南家、室田、前田、村上

一月五日

午前十一時七分、中村先生御親父御逝去遊ばさる。

一月六日

午前七時卅分、中村先生よりの御知らせに依り御逝去に驚く。会津・野々内・室田・福岡に電話し、各塾員に通報頼む。塾員集合、交代にて御通夜す。御供花す。

一月七日

御密葬式

午前八時三十分御出棺。蓮花谷火葬場に趣く。塾員一同御供し、会津・室田・小野、塾代表して居残り、道太郎先生の御供をなして、御遺骨を御守りして、先生宅に帰宅す。交代にて御通夜す。

一月八日

中村先生、御高熱三十九度。一日も早く御全快を御祈りする。交代にて御通夜す。

一月九日

御本葬式

寺間一寺町

東山仁王門前、信行寺に於て、各役割に依り塾員、部署に就く。供花す。役割左記の通り。

委員長 堂本印象先生

受付 石田氏・大畑氏・高崎氏・鍛冶氏・松井氏・室田氏

門札 青甲社四名、会津・野々内・田中・室福岡・中本・加藤・南家・村上(六名交代)

中間挨拶係 青甲社十名

接待係 青甲社五名、山内氏・土井氏・佐藤氏(配膳五名)

式場準備係 安藤商店氏・小川氏・稲垣氏

僧侶係 岡岩太郎氏・藤具氏

弔電係 水野氏(青甲社)

親族係 小野

焼香係 配膳

電話係 上田
会計 村山
下足 八人

以上

各役員殿には翌朝、室田・小野同道にて挨拶廻りす。

一月十日 一たい夜

塾一同参詣す。種々の御供養に預る。塾として粗菓御供へす。

一月十二日

研究会中止。

一月より塾費は例年二円なれども一円也値上する事に一同協議の上、決定す。尚、臨時費として各三円宛徴収する事、申し合せ決定す。中村先生御病氣、追々御快方なるも御臥床に承る。

一月十八日

中村先生へ御病氣御見舞として果物一籠、幹事・副幹事にて持参す。

一月二十四日

御亡父様の三たい「連夜」やなれども都合により参詣は御遠慮申上ぐ。

一月廿五日

一月二十三日に桂田栄明氏(日出新聞学芸部)死去せられしを新聞紙に依り知り、二十四日朝(五円也)供花す。葬儀には塾員代理として小野参詣詣す。

二月拾二日

当日の研究会は先生宅御病氣続きの為、御遠慮致すことに成る。

二月十三日

夕刻より会津・野々内・小野、先生御宅へ集合し、塾展の件に就て種々先生より御話を承り、辞去す。

二月拾五日

本日午後二時より小野幹事宅へ塾員集合し、塾展開催可否に付、相談し、結局、本年は見合すことに一決。右委細、先生に言上することに決定す。

出席者 会津・加藤・小野・野々内・松井・室田・村上・上田・前田・南

家・田中

二月拾六日

昨日の塾展の件に付、全室田・小野、塾員を代理して先生宅に御伺致し御報告す。先生よりは結局は塾員の勉強の為、外部との関係、塾としての態度、費用の問題、展覧会開催する事は研究途上の塾員としては一番よき勉強法で有る等、種々、大局より見たる御高説を承り、我々も大いに反省し、尚、一応、塾員一同と協議するの必要を感じし次第なり。深夜辞去す。

二月十九日

第十六師団駐屯部隊慰問の為、約色紙形、洋額付スケッチ献納致す事にあり、実行委員として野々内氏・福岡、両氏を煩し、万事依頼す。

二月廿五日

研究会開催。出品者、左記の通り。

加藤	山・畠・近効・風景の四点
松井	大根島の風景 一点
増田	風景・幼女・子供 三点
南家	山の風景 一点
村上	人物 一点
野々内	カレバスの鯉 一点
総計出品数	十一點
優作	加藤 山・近効・畠
	村上 人物

三月三日

会津勝己氏、自己現在の境隅「に依り休塾して静かに勉強いたしたき旨、申し出でられ、種々慰撫、思ひ止る事、良策なる旨、一同より進言せしも頑としてきかず、遂に休塾せらる。

三月七日

会津氏より退塾届落手。塾としては会津氏、今後の行動にゆとりを与へ、復帰(塾)出来る様なる立場に致し置く為、全届は受理せず、取敢ず幹事の下に保管致すことに決定す。

三月九日

紀元二千六百年奉祝会へ第二回献納、昨年度に内閣祝展局内、紀元二千六百年奉祝会近衛文麿閣下に献納せし神武天皇聖蹟図は其後、十余点を追加献納致すことに成り、午後七時より先生宅集合。作品の下見をして頂き、

表装に廻すこと、す。

主用主冊

献納作品画題・氏名、左記の通り。

- 十九、熊野神邑 小野踏青
- 二十、狭野 加藤美代三
- 二十一、菟狹 鍛冶照応
- 二十二、菟田穿村 南家有吉
- 二十三、丹生川上 室田秀太郎
- 二十四、埃宮、多祁理宮 村上安秋
- 二十五、崗水門 野々内保太郎
- 二十六、高嶋宮 前田典男
- 廿七、雄水門伝説地 増田光子
- 二十八、盾津推考地 由里本景子

三月十一日

市展の相談会の為、当塾より小野幹事、塾を代表して出席す。中村部長より事務局緊迫の際、画壇の為、是非出品せられたしと種々懇談有りたり。塾としては出品は自由意志とす。

於 矢尾政四階

三月十二日

研究会

出席者 増田、田中、南家、小野、加藤、野々内、福岡、前田、カジ、室

田、村上、中本

塾展は愈々開催と決定す。

優作 風景 加藤美代三

婦人 村上安秋

三月十三日

塾展開催の為、小野幹事、美術館借館申込に行く。

三月十九日

十六師団駐屯部隊へ献納（慰問スケッチ額入）、野々内・小野・室田・福岡の四名にて献納を終了す。作品、左の如し。

牛 小野

霞沢岳

女 加藤

女兒 由里本

少女 石田

紙屋川上流 田中

牡丹 松井

椿 村上

風景 カジ

婦人 野々内

顔 伊藤

八瀬ノ雪 増田

静物 南家

志摩の村 川島

婦女 上田

西本願寺 室田

風景 福岡

人物 前田

デッサン 中本

三月二十三日

京都画家聯盟結成の為、委員会を京大会館に於て開催、塾より小野・室

田・福岡・野々内出席す。

三月廿五日

奈良法隆寺方面 遠足会

午前七時三十分 京都駅集合

出席者 先生、室田、福岡、前田、小野、田中、カジ

法隆寺壁画拝観。現在、修理中なれども絵専校吉田助手の厚意により中村

先生の御蔭にて目前に名作を詳かに観察出来しは大収穫なり。中宮寺拝観、

奈良博物館等々。帰途京都にて中村先生より御馳走に預り、散会せしは午

後九時。

三月二十七日

午前九時三十分の列車にて御聖蹟作品献納の為、上京す。

四月十二日 研究会

出席者 野々内、松井、小野、福岡、上田、田中、加藤、村上、南家、中本、前田、室田、カジ

出品 松井 白木蓮

村上 人物(女)

小の 風景

加藤 椿(花鳥)

〃 風景

優作 加藤氏 風景・ツバキ 二点

鍛冶氏 風景 一点

四月十四日

美術館借用認可證来る。中村先生より費用を頂き早速納金す。

四月十五日

塾展予算案相談の為、室田氏宅へ塾展の委員集合。予算見積書作成ス(大体、昨年度の記録ニヨリ)。

四月二十三日 塾展小下図相談会

出席者 上田、松井、村上、田中、小野、南家、鍛冶、川島、福岡、室田、野々内、加藤

五月一日

京都画家聯盟発会式

場所 智恩院境内、華頂会館

先生を初メ塾員一同出席ス。

五月二日 小下図相談会

出席者 先生宅、午後七時より

五月九日 小下図相談会

出席者 先生宅、午後七時より

五月十六日 草稿相談会

出席者 福岡、中本、上田、カジ、小の、加藤、松井、野々内、村上、田中

会計前田典男氏、盲腸炎の為、当分は休養を要する為、会計は小野幹事、一時兼任すること、す。

五月二十一日 草稿相談会

出席者 加藤、室田、小の、田中、松井、中本、野々内、村上、鍛冶

六月一日 塾展準備相談会

出席者 小の、村上、川島、松井、室田、加藤、上田、野々内、中本、南家、田中、福岡

六月二日 中村先生御病気の為、先生宅へ委員集合。道太郎先生を中心として種々相談の結果、今秋に延期ス。

六月三日 室田・小野、塾を代表して中村先生御病氣御見舞に参上す。

六月三日夜、室田氏宅集合

塾展中止の件に付、塾員一同に報告ス。

出席 室田、福岡、小野、加藤、南家、中本、田中、上田、増田、松井、野々内、以上

六月十六日

福岡君と同道にて先生宅へ御伺ひ致し、ポスター代・印刷代を頂戴して帰る。

七月十二日 研究会・総会

鍛冶、中本、野々内、加藤、小野、福岡、田中、松井・上田、室田、南家、川島、村上、前田、以上出席

研究会出品

加藤 泰山木 小野 雨後風景 松井 猫 鍛冶 娘 村上

合評・投票の結果、

優作 泰山木 小野 娘 村上

研究会終了。引続き総会に移り、先生より役員改任の事、仰せ出され、幹事野々内、副幹事福岡、会計上田、研究会係加藤・南家と御指名あり。御受けし、又、前役員に対して御慰勞の御言葉ありたり。新幹事就任の挨拶をなし、各役員それ〴〵挨拶を終り、正午散会す。

七月十五日 夜

七月十五日 夜

七月十五日 夜

七月十五日 夜

七月十五日 夜

七月十五日 夜

七月十五日 夜

幹事宅に於て各役員事務引継ぎをなし、今後の塾務に就て、前役員の見
と新役員意向を完全に一致を見せり。今後は現役員が一丸となり、塾の
万端の事を所理し、塾務円満なる運行を計り、又塾員全体の意向を常々役
員が知り得る様、意を用ふる事とす。

七月十八日 夜、幹事宅に於て

新役員会を催す。全役員出席。本年度の事業 予定表を造り、会計の新
方針等協議す。重なる事は滞納塾費の解決方法として、作品を貰ふ計画、
役員交通費自弁等、其他、廿五日の座談会に発表の諸事項を協議。深更
散会す。

七月廿五日 午後七時より先生御宅に於て

役員は六時半頃集り、先生に今晚発表の事を一応御諒解を願ふ。今回より
集会の場合は国民儀礼を行ふ事とし、福岡君の司会にて行ふ。

一、役員会運用の説明

一、本年度事業予定表の説明

一、会計の充実と出納の方法説明

一、通信網発表(中村塾電略(十)と定む)

一、慶弔費

塾員結婚祝 五円也

応召祝 五円也(国旗贈呈)

塾員死亡香花料 拾円也

塾員両親妻子 五円也

(以上の御祝返等は無しにする事)

一、文展出品草稿相談日(月曜日夜)

四日、十一日、十八日、廿五日

九月一日、八日

以上発表。塾員より二、三質問・意見の発表あり。原案通りに決定す。協
議を終り、雑談の後、十時散会。

【J】

八月一日 幹事・副幹事同道にて中村先生御宅に伺ひ、八朔の御挨拶申述ぶ。
先生に暫く面談、辞去。西山先生宅に伺ひ玄関にて八朔の御挨拶申上ぐ。

中村先生より過日の京都出品協会の顧問会議に於ける文展出品作、京都に
ての下審査の議は不可能の事に決定せし様、承る。

八月四日 草稿相談日、午後七時

前田、加藤出席

前田 風景

加藤 きび

八月十一日 草稿相談日、午後七時

加藤、鍛冶、中本、田中、上田、川島、南家、松井、前田出席

鍛冶 風景(草稿) 決定

松井 梅(シ)

加藤 きび(小下図) 決定

中本 人物(シ) 決定

田中 人物(シ) 決定

上田 風景(シ)

川島 風景(シ) 決定

南家 風景(シ)

前田 風景(草稿)

八月十三日

先生嚴父様初盆に付き、福岡・上田、御墓に参拝、供花し、先生御宅に参
上。御仏前に御供物を奉り、御賢母様に御挨拶を申上げ、辞去す。

八月十八日 草稿相談日

中本、野々内、加藤、小野、田中、松井、川島、室田

松井 梅(草稿) 決定

川島 風景(シ) 決定

加藤 きび(シ)

中本 人物(小下図) 決定

田中 人物(小下図) 決定

小野 家鴨(シ) 決定

八月廿五日 草稿相談日
野々内 鶉(シ)

中本、野々内、加藤、小野、福岡、上田、石田、村上、前田

加藤 きび(草稿) 決定

小野 家鴨(シ)

中本 人物(シ)

村上 人物(シ)

前田 風景(草稿) 決定

上田 風景(小下図)

野々内 鶉(シ)

九月一日 草稿相談日

小野、加藤、室田、上田、村上、中本、野々内、川島

小野 あひる(草稿)

村上 人物(シ) 決定

中本 人物(シ)

上田 風景(シ) 決定

野々内 鶉(シ)

川島 風景(シ) 決定

此の日、先生前夜来、腹痛にて御難儀なされ居りしも、塾員の為、特に病を冒してご覧下さる。

九月八日 草稿相談日

鍛冶、中本、加藤、小野、田中、上田、福岡、野々内

小野 家鴨(草稿) 決定

福岡 風景(シ) 決定

野々内 鶉(草稿) 決定

上田 風景(シ) 決定

田中 人物(シ) 決定

これにて本年度文展出品下図相談終了す。

吉井嘉光氏入塾の申込あり。作品(人物)を中心に協議、入塾を許可する事となす。作品下見会の期日を協議。二十五日頃にする事とし、幹事より美術館へ申込む筈。塾展の事等相談、九時半散会す。

九月十二日

美術館事務所に出頭し、文展出品作下見会の会場借用方、交渉す。当方廿五日を希望せるも、院展会期直前なる故、早々願下度しとの事にて廿四日と決定す。猶、今秋開催予定の塾展会期の事、確かめたる処、十一月一日より三日迄に決定せる旨、確答を得、宣伝部の方へ電車広告の件、交渉方、依頼す。

九月廿一日

先生御宅より電話を頂き、「昨日の出品協会の会合に出席する様、通知を受け居りたるも、取込み中にて失念したる故、即時美術館に出頭、昨日の協議会の様子を聞き置し様」との事にて、早速、美術館事務所に行き、西野主事に面談、事情聴取す。出品運賃は昨年同価、搬入は一便九月卅日、二便十月三日にて、第三便を廃し、料金は一便を昨年^の二便の料とし、二便に三便の料金を通用する事となりたる由なり。

九月二十四日

朝より少雨あり、一時止みたるも又雨になる。下見会決行や否やと迷ひたるも福岡、副幹事と意見交換の結果、決行する事とす。

自動車の方、手違を生じ、午前中に作品全部集^{集はず}、午後、幹事、自動車と供に行きて事情説明して廻る。先生、三時頃御出席を仰ぎ、先着順にて御教導願ふ。下見会中止と考へて、作品持込まぬ人もあり、十点集る。

中本、野々内、小野、田中、福岡、上田、室田、前田、村上、増田

先生、最近に至り、又御病状悪化し、当日も非常に御疲労の様子見へ、一同恐縮の外なし。夕刻に至り、全部終り、雨の中を作品持ち帰る。

九月二十七日

副幹事より電話あり。「先生御宅より先生御病状が今秋の塾展開催不能の状態にあり、中止したき故、美術館及電車広告も取り消して貰ふ様との事なりし由」にて、早速、美術館に出頭。西野主事に面談、事情申述べ、諒解を求めたる処、中止も二度目の事として、上司、及他の団体に対して、甚だ困る故、再考して頂けぬかとの事にて、先方の意見を即時退けるも如何と考へ、一旦辞去し、副幹事と談合の上、同道し、止むを得ざる事情を述べ中止の事に決定し辞去。先生御宅へ御伺いし、御報告申上げたり。先

生は臥床せられ、御病室にて御見舞申上。塾の事に御懇命なく御養生下さる様、御願して辞去す。

十月三日

副幹事宅へ堂本先生より電話あり。文展出品の小下図を至急届ける様との事にて、福岡・野々内にて早速描き、夕刻御訪ねして御渡し致し、御出発の時刻を尋ねたれ共、決定致し居らぬ由にて辞去す。
此の日、塾員全部文展搬入を終る。

鍛冶照応 田植風景

中本英夫 観賞

野々内保太郎 鶉

石田与一 少年

加藤美代三 きび

小野踏青 家鴨

田中久義 生花

福岡玉僊 つくる船

上田道三 群船

松井大浩 白梅

川島 洞 東尋坊

室田秀太郎 フルツパラ

前田典夫 風景

村上安秋 ひとゝき

由里本景子 手芸

増田光子 菜圃の(朝)

伊藤悠紀子 針仕事

以上、十七点

十月四日 午前九時

加藤君宅へ塾員一同集合。塾展中止の事情を報告。今後の事等協議。それより一同打揃ひて中村先生御宅へ御訪ね申上、製作中御配慮を頂きたる御礼を申述。先生の御見舞を申上ぐ。先生は白浜温泉へ入湯に御越しになり居り、奥様に御目に掛り、右御挨拶申上ぐ。これにて一同散会。

小野・福岡・野々内、三人にて塾展中止の事を各新聞・雑誌社に報告状を

出す。

十月十二日

文展日本画入選者発表あり。夜七時、先生御宅より副幹事の方へ御電話あり。

中本英夫 観賞

右一点のみ入選し、他の十六点は落選す。

十月十三日

小野・室田・加藤・福岡・野々内、先生御宅に参上。先生に御目に掛り、不成績の御詫び申上ぐ。先生より御懇了なる御慰撫の御言葉を頂き、辞去す。堂本先生へ謝電を發す。

十月廿九日 役員会、副幹事宅にて

加藤、上田、福岡出品。種々協議す。

十一月十二日 午前九時より研究会

鍛冶、中本、野々内、久山、加藤、小野、田中、上田、福岡、松井、南家、室田、前田、村上、吉井

風景Ⅱ鍛冶、籾Ⅱ加藤、南紀風景Ⅱ小野、鴨・風景Ⅱ松井、高雄風景Ⅱ南家、少女Ⅱ村上、海Ⅱ吉井、以上八点出品

互評の結果、南家、加藤の作、優作になる。

先生より今一層勉強せされば、画壇の落互者となる憂ありと御戒めの御話あり。一同恐縮、拝聴す。献納画の事、決定す。十二月・一月の両研究会に出品し、其の完成を期する事とす。

十一月十九日

西山先生御宅、御養子迎へらる事となりし由、中村先生御宅御報せを頂き、福岡・野々内、御祝を持参。祝詞を申述ぶ。祝(高島屋の式拾円券)。

十一月廿日

西山先生御宅の御婚礼御披露の御招待を頂き、塾代表として幹事、京都ホテルに参上す。

十一月廿五日 座談会、午後六時

鍛冶、中本、野々内、加藤、小野、福岡、上田、南家、前田、村上、吉井、出席

献納画の寸法

二尺四寸―二尺一寸、一尺九寸―一尺三寸の二種とし、今後、研究会に出品する事とす。

十二月十三日 事始、及研究会

午前中、野々内・上田、西山先生御宅に参上、事始の御挨拶を申上げ、引き続き福岡・上田・野々内にて中村先生御宅に推参、事始めの御挨拶を申上ぐ。

中村先生方へは御鏡餅、歳暮として五拾円也。女中様三人へ拾円位品物。西山先生御宅へは豊田屋の果物一籠(五円)。

午後より研究会

鍛冶、中本、野々内、加藤、小野、福岡、上田、南家、松井、川島、室田、村上、前田、吉井出席

野々内 青木

加藤 きび・百日草

小野 双鳩

松井 風景

村上 人物

吉井 海風景

批評を終り、投票の結果、

加藤 百日草

優作に決定す。後、優作選定の方法につき、種々意見出でたり。

十二月廿二日 午後二時より

京都日本画家聯盟の委員あり。福岡・小野・野々内、出席。献納画の事に就き協議。陸海兩軍へ一人各々一点づ、(二点) 献納の事となる。額縁代(仮張共) 甲式拾円、乙七円八十銭。

十二月廿三日

小野・福岡・野々内、中村先生御宅を訪問し、画家聯盟委員会の模様を御報告申上ぐ。塾としても一致協力の事に決定す。

十二月廿七日

先生より電話にて御病気の為、一月元旦の新年挨拶の会を中止する様、御報告を受け、早速、其の事、塾員に通知す。福岡・野々内、先生御宅へ参上。御見舞申上げる。

昭和十七年一月元旦

野々内・福岡同道、西山先生御宅へ御年始申上げ、堂本先生方へも推参す。

中村先生御宅へ御年賀に参上。玄関にて奥様へ御挨拶申上げ、辞去。

一月九日

十五日に新年挨拶の会を催す様、先生より電話あり。早速通知を出す。画家聯盟よりの献納画、塾下見会は中止の事とす。

一月十五日 午前十時、新年御挨拶の会

鍛冶、中本、野々内、加藤、小野、福岡、上田、田中、松井、室田、前田、村上出席

新年の御盃を頂戴、幹事より御挨拶申す。先生より御懇切なる御訓話を拝聴し、例により先生始め一同、玉の書初めをなし、正午散会す。吉井、遅れて来会す。

二月十二日 正午より研究会

鍛冶、野々内、加藤、小野、田中、松井、室田、村上、吉井出席

鍛冶(静物) 野々内(楓と椿)

加藤(葉牡丹) 二点 松井(くぬぎ)

村上(人形) 吉井(雪風景)

例により互評し、投票により加藤(葉牡丹、黄色の方) 優作と決定。猶、松井(くぬぎ)、野々内(楓と椿) は先生御推挙により優作となる。

優作 加藤 葉牡丹

全 松井 くぬぎ

全 野々内 楓と椿

研究会終了後、座談に移り、去る二月一日、前・現役員相談会にて決定せる研究会強化問題を持ち出し、相談す。先生も頗る結構なりと御賛同下され、今後二回に一度は必ず研究会に出品する事、万一やむを得ぬ事情の為、作品出来ぬ場合は写生でも持参、先生の御指導を仰ぐ事に決定す。

二月一日 午後六時より幹事宅に於て、前幹事、及現役員の相談会を催し、今後、研究会を一層強化する事を協議す。出席者、下記の通り。

小野、中本、松井、福岡、上田、加藤、南家、野々内

二月廿六日

副幹事福岡玉僊君、二度目の応召。午前九時卅分、盛大なる歓送裡に勇躍
 出発。塾よりは先生始め塾員一同歡送す。此日午後、野々内・上田同道し、
 先生御宅へ伺ひ、奥様の病氣御見舞申上、豊田屋果物一籠、御見舞として
 持参す。

三月十二日 正午より研究会

鍛冶、野々内、加藤、小野、上田、松井、室田、前田、田中、村上、吉井、
 以上出席

(木蓮・鳩) 野々内 (梅)・(椿) 二点 加藤

(鴨) 小野 (風景) 上田

(梅) 松井 (風景) 室田

(人物) 村上 (風景) 吉井

例により互評後、優作決定。

優作 梅 松井

椿 加藤

鴨 小野

人物 村上、以上四点也

研究会後、暫く談話。市展に努力、出品の申合せをなし、夕刻散会す。紀
 元二千六百年奉祝会より雑誌『肇国精進』拾数部送り来る。塾より献納せ
 し、神武天皇御聖蹟画写真数点掲載されたり。塾員に分配す。奉祝会へ謝
 礼状を出し置く。

四月八日 市展出品相談会、午前九時より

松井 (溪流) 村上 (婦女)

小野 (鹿) 野々内 (楓樹)

四月十三日 市展出品相談会、午前九時

松井 (溪流) 村上 (婦)

小野 (鹿) 加藤 (桜)

上田、中本、増田出席

先生御病氣の故、見て頂く事を辞退したれ共、御苦痛を押して御覧下さる。

四月廿八日

京都市美術展覧会入選発表あり。塾よりは出品作全部入選す。

湯ざめ 村上安秋

斜陽 川島 洞

髪 由里本景子

群船 上田道三

花 田中久義

楓樹 野々内保太郎

仔鹿 小野踏青

朝 増田光子

委員出品

白日 加藤美代三

御室の桜 全上

五月十二日 研究会(正午より)

鍛冶、中本、野々内、加藤、小野、田中、上田、松井、室田、村上、以上
 出席

鍛冶 (風の牡丹) 中本 (スケッチ)

野々内 (白藤) 小野 (若葉・鳩)

田中 (女学生) 上田 (風景) 二点

松井 (連翹・牡丹) 二点 村上 (人物)

例により各作品の互評をなし、先生より御批評を受け、投票の結果、優作

決定。猶、今回、準優作と云ふものを造る事となる。

若葉二鳩 小野

女学生 田中

人物 村上

以上優作

白藤 野々内

連翹 松井

風の牡丹 鍛冶

以上準優作

六月十二日 研究会、午前八時半

鍛冶、中本、加藤、上田、松井、村上、室田出席

鍛冶 (風景) 加藤 (風景・ケシ)

松井 (静物) 村上 (人物)

上田 (写生)

例により互評の上、先生の御批評を受く。先生、病をおして御出席下され、恐縮に堪へず。

優作 風景、ケシ 加藤

人物 村上

静物 松井

研究会後、座談会を塾員のみにて復活の事と決し、廿日午後七時半より野々内宅にて催す事となる。

六月十八日

京都日本画家聯盟委員会あり。塾より小野・野々内出席。下記の通り、先生の御指令により次年度、当塾よりの役員決定す。

理事 中村先生・野々内

委員 小野(当番)・鍛冶・加藤・松井

六月二十五日 座談会、午後七時より野々内宅

小野、加藤、中本、田中、上田、松井、室田、村上、野々内出席

福岡君への慰問、寄書・手紙を一同にて書く。種々懇談十一時散会。

七月十二日 研究会、午前八時半より

鍛冶、小野、野々内、加藤、田中、上田、松井、村上、吉井、南家、久山

出席

小野 青鷲 野々内 狐

田中 小女 上田 風景

松井 鶏 村上 芸妓

吉井 幼児 久山 鶏

例により互評の後、先生より御懇評を頂き、投票の結果、下記の通り決定。

村上 芸妓

松井 鶏 (軍鶏のひな)

久山 鶏

田中 少女

研究会終了後、十七年度総会に移り、十六年会計報告をなす。今度より役員改選を新年に行ふ事となり、現役員にて本年一ぱい塾務を執る事となる。文展下図相談日を決めて頂く。

七月廿五日、八月五日、八月十五日、八月廿五日、九月五日、九月十日、以上、各午前八時半より二時間

七月十六日

画家聯盟理事会、京大楽友会館にて催さる。野々内出席。過日、東京にて行はれたる製作資材協会に京都より出席されたる役員諸氏よりの報告を聞く。

七月廿五日 文展下図相談日

松井、野々内出席

先生より御懇切なる御指導を仰ぐ。

松井「蓮」、野々内「狐」、小下図決定

出征中の福岡玉僊君への慰問の意味にて、幸便ありたれば色紙を各一点宛描きて贈る事に、一昨日、先生より御指示を頂き、早速、其の儀一同へ伝へたれ共、急な事にて不在の者多く、色紙の集り方、甚だ悪るし。

八月五日 文展下図相談日

鍛冶、野々内、小野、加藤、田中、松井、上田、室田、吉井出席

加藤 立山 決定(本紙着手)

鍛冶 綿羊風景 上田 風景人物

野々内 狐 松井 蓮

小野 鹿 吉井 人物

田中 人物

八月一日 午前中

野々内・上田同道にて西山先生御宅へ暑中御挨拶に参上。中村先生御宅へ

推参。先生に拝眉、御挨拶申述ぶ。

八月十日

京都出品協会理事会、南禅寺無隣庵に催され、野々内出席す。午前九時より午後四時まで交渉の為、時間を費し、下記の事、決定す。

搬入 第一便 九月卅日午後六時

第二便 十月二日正午

運賃 第一便 一平方尺 四十五銭

第二便 一平方尺 五十七銭

文部省よりの保助金を運送店へ交付

八月十一日

大阪阿武野^{〔阿武野〕}、陸軍病院へ

秋叢 野々内

三宅島 上田

の二点を献納す。

八月十三日 午前

鍛冶・野々内同道にて、先生御尊父様の御墓に詣ず。

八月十五日 文展下図相談日

鍛冶 風景

野々内 狐

小野 鹿

上田 風景人物

八月廿日 文展下図相談日

鍛冶 風景(草稿決定) 野々内 狐(草稿決定)

小野 鹿(草稿) 松井 蓮(草稿)

上田 風景人物(草稿) 久山 鶏(草稿)

室田 人物(小下図) 増田 人物(小下図)

八月二十四日

故竹内栖鳳先生の遺^{〔遺〕}を午前五時二十八分、京都駅に迎ふ。塾より先生始め野々内・上田出迎、高台寺の邸にて焼香、辞去。

八月二十七日

黒谷本坊に於て栖鳳先生葬儀執行せられ、塾より野々内・鍛冶・小野・加藤・上田、御手伝す。塾員一同焼香。

八月二十五日

文展下図相談日

松井 (蓮) 決定

上田 (風景人物) 決定

村上 (芸妓) 田中 (人物)

加藤、野々内出席

九月四日

中本君母堂逝去せられ、告別式執行せられ、塾より香華料を贈り、一同焼

香す。

九月五日 文展下図相談日

小野 (鹿) 決定

増田 (浴後) 決定 村上 (妓女) 決定

野々内出席

九月廿六日 文展出品作下見

美術館に於て九時より御病中、先生御出席を賜り種々御懇評・御指導を頂

く。一時頃終了。

鍛冶 牧場

久山 初秋彩映

野々内 春

加藤 立山ノ残雪

小野 鹿

上田 野二働く

松井 朝涼

室田 浜

村上 妓女春装図

増田 浴後

吉井 夕べ 以上

十月二日 文展搬入日

塾より出品、下記の通也。

牧場(綿羊) 鍛冶照応

初秋彩映 久山青巢

春 野々内保太郎

立山の残雪 加藤美代三

鹿 小野踏青

母子 田中久義

野に働く 上田道三

朝涼 松井大浩

浜 室田秀太郎

妓女春装図

夕べ 村上安秋

落下傘 吉井嘉光 由里本景子

浴後 増田光子
奉仕 伊藤悠紀子
以上十四点

十月三日

塾員出品者一同、先生御宅に伺ひ、制作中御指導と御配慮に対し、御礼申上ぐ。先生より種々御懇話承る。殊に文展のみに頼る事も情勢上不利なれば、来年より希望者は院展にも出品せられてはとの御話にて、先生の進取的な御考に感激す。辞去。加藤君方にて一同寄書の慰問文を書き、福岡君に出す事とす。先生も書面を御書き下され、同封する事とす。

十月五日

鍛冶・野々内、西山先生の御東上を九時半、京都駅に御見送り申上ぐ。

十月十二日 文展入選発表

立山の残雪 加藤美代三

春 野々内保太郎

浜 室田秀太郎

以上三点入選

午後四時、先生より入選の報を頂き、早速、加藤・室田・野々内、御礼に参上。先生に御礼言上。御感想を承り、辞去。三人揃ひて八坂の西山先生御宅へ御礼の御挨拶に推参す。東京の御宿の方へは中村先生より既に謝電を御打ち下されし由なれば、書面にて礼状を差出す事とす。

十月十八日

午後八時四十分、西山先生、御帰洛遊され、野々内御出迎ひ申上ぐ。

十月廿五日 座談会(午後七時より野々内にて)

小野、中本、上田、松井、室田、村上、野々内出席

特に出す可き特別の話題なけ共、深更まで種々^(私説)談す。

十一月十二日 研究会(午前八時半より先生御宅)

鍛冶、久山、野々内、加藤、小野、田中、上田、松井、室田、中本、村上、吉井、以上出席

久山 (鶉二点) 野々内 (鳩)

加藤 (風景) 小野 (秋景) (秋花鳥)

室田 (風景) 村上 (人物)

吉井 (芙蓉) 以上出品
例により互評、先生の御批評を仰ぎ、投票の結果、下記優作となる。

秋景 小野

南紀風景 室田

風景 加藤

人物 村上

十二月一日 座談会(午後六時半より野々内宅)

小野、上田、松井、南家、村上、室田、野々内出席

画壇の事、文展の事、種々^(私説)談、論議。十一時半散会。

十二月八日 現役員、並新役員(内定) 会儀

午後六時卅分より野々内氏宅ニテ。

出席者 松井、田中、室田、上田、鍛冶、加藤、野々内、小野

協議内容

二、三月(十八年度)ニかけて新しく献納画を描く

一月、全日本画家献納画展覧会出品ニ就て小野君より説明あり

十二月十三日 事始、及研究会、午前九時より

早朝、野々内・上田君、西山先生御宅へ事始の挨拶に参上の為、遅刻。

出席者 村上、田中、加藤、小野、川島、鍛冶、吉井、松井、中本、久山、南家

小野(鴨)、松井(花鳥)、村上(黒い帽子)、久山(写生菊)、南家(風景・牛、二点) 出品。

投票の結果、南家君(風景)優作決定。

研究会終了後、新旧役員の挨拶あり。

新役員

幹事 鍛冶照応

副幹事 加藤美代三

研究会 松井大浩、田中久義、室田秀太郎

会計 上田道三

十八年一月六日、全日本画家献納画展覧会出品作品を持ちより研究会決行

の事。寸法尺八横物、表装随意。

二、三月ニかけ、尺八横物二点制作シ研究会実施。

十二月十四日 京都方面新聞社関係へ宛て新役員のお知らせ（急を要する処のみ）五通。

十二月十八日 東京・大阪・京都方面新聞・雑誌社へ役員改任通知十七通投函。

〔貼り込み補訂〕

十二月廿日 役員会儀、午後七時、新役員鍛冶君宅にて十八年度事業予定、並に今回新しく設置の写生会・見学研究会費・献納費、其他の予算編成す。

〔貼り込み以上〕

十二月廿三日 京都新聞社献納の先生御作「醜の御箱」写真焼付、便利堂より出来持参に付、鍛冶・加藤、先生御宅に参集して書状を添へ左記の五社へ発送す。

朝日新聞京都支社、毎日新聞京都支社、同盟通信京都支社、京都新聞、大阪^{新聞} 聞京都支社

十二月十四日発送の分、朝日新聞京都支社をのぞき全部、新聞紙上へ記載。

廿日決定の十八年度予定の事業、並ニ予算を先生に呈出。

十二月廿八日 田中久義君、病氣見舞状、塾より投函。

注

- 1 中村大三郎およびその教育方針に関しては奥村一郎・福田道宏「中村大三郎画塾の研究」(『美術フォーラム21』第一六号、二〇〇七年一月、美術フォーラム21刊行会、一一四～一二八頁)を参照した。
- 2 『日本美術新報』臨時号一三二号(中村大三郎画塾創立七周年記念展特別号)、一九三九年、美術往来社。
- 3 前掲注1「中村大三郎画塾の研究」。

付記

本稿で紹介する『塾誌』を含む中村大三郎画塾関係資料については、財団法人ボローラ美術財団より平成十八年度「美術館職員の調査研究」助成を受けた「昭和戦前戦中期、日本画画塾・塾展の研究」(代表奥村一郎、共同研究者福田道宏)による調査成果である。

表 中村大三郎画塾『塾誌』の現状

括り	写真	現丁	日付	始年月日	終年月日	紙	内容	翻刻者
	1	表紙						
	2	表紙裏						
A	1	丁オ	昭和十三年七月廿一日	19380721	19380721	①なし	塾展記録整理	奥村
	3	1丁ウ	(昭和十三年七月廿一日つき)	19380721	19380721	①なし	塾展記録整理	
		2丁オ	(昭和十三年七月廿一日つき)七月廿	19380721	19380722	①なし	塾展記録整理	
	4	2丁ウ	(七月廿二日つき)七月廿三日	19380722	19380723	①なし	座談会	
		3丁オ	(七月廿三日つき)	19380723	19380723	①なし	座談会	
	5	3丁ウ	(七月廿三日つき)	19380723	19380723	①なし		
		4丁オ	(七月廿三日つき)	19380723	19380723	①なし		
	6	4丁ウ	(七月廿三日つき)八月五日	19380723	19380805	①なし	下絵相談日	
		5丁オ	(八月五日つき)	19380805	19380805	①なし		
	7	5丁ウ	(八月五日つき)八月十五日	19380805	19380815	①なし	小下絵・草稿相談日	
		6丁オ	(八月十五日つき)	19380815	19380815	①なし		
	8	6丁ウ	(八月十五日つき)	19380815	19380815	①なし		
		7丁オ	八月廿一日	19380821	19380821	①なし	臨時下絵相談日	
	9	7丁ウ	(八月廿一日つき)八月十日	19380821	19380810	①なし		
		8丁オ	八月廿五日	19380825	19380825	①なし		
	10	8丁ウ	(八月廿五日つき)	19380825	19380825	①なし		
		9丁オ	(八月廿五日つき)九月四日	19380825	19380904	①なし		
	11	9丁ウ	九月十五日	19380915	19380915	①なし		
		10丁オ	(九月十五日つき)九月十七日、九月十一日	19380915	19380911	①なし		
	12	10丁ウ	(九月十一日つき)九月廿一日	19380911	19380921	①なし		
		11丁オ	(九月廿一日つき)	19380921	19380921	①なし		
13	11丁ウ	(九月廿一日つき)九月廿四日、九月廿九日、十月五日	19380921	19381005	①なし			
	12丁オ	(十月五日つき)十月八日	19381005	19381008	①なし			
14	12丁ウ	(十月八日つき)十月十二日	19381008	19381012	①なし			
	13丁オ	(十月十二日つき)十月廿日、十一月	19381012	19381102	①なし			
15	13丁ウ	十一月三日、十二月三日	19381103	19381203	①なし			
	14丁オ	(十二月三日つき)十二月四日	19381203	19381204	①なし			
16	14丁ウ	(十二月四日つき)十二月八日	19381204	19381208	①なし			
	15丁オ	十二月十三日、十二月十七日	19381213	19381217	①なし			
17	15丁ウ	白紙			①なし			
	16丁オ	昭和十四年一月一日、一月二十日	19390101	19390120	①なし			
18	16丁ウ	(一月二十日つき)	19390120	19390120	①なし			
	17丁オ	(一月二十日つき)	19390120	19390120	①なし			
19	17丁ウ	(一月二十日つき)、一月七日	19390120	19390107	①なし			
	18丁オ	(一月七日つき)、二月十九日	19390107	19390219	①なし			
20	18丁ウ	(二月十九日つき)、二月廿五日	19390219	19390225	①なし			
	19丁オ	(二月廿五日つき)、三月十一日	19390225	19390311	①なし			
21	19丁ウ	(三月十一日つき)、三月廿六日	19390311	19390326	①なし	末尾「以上十一名出席」3行白紙 冒頭「昭和十五年」		
B	20	丁オ	昭和十五年一月一日、一月二十日	19400101	19400120	①なし		
	22	20丁ウ	(一月二十日つき)、二月二日	19400120	19400202	①なし		
		21丁オ	(二月二日つき)、二月五日	19400202	19400205	①なし		
	23	21丁ウ	(二月五日つき)、二月七日	19400205	19400207	①なし		
		22丁オ	(二月七日つき)、二月十日	19400207	19400210	①なし		
	24	22丁ウ	(二月十日つき)、二月十一日	19400210	19400211	①なし		
		23丁オ	(二月十一日つき)	19400211	19400211	①なし		
	25	23丁ウ	(二月十一日つき)、二月十二日	19400211	19400212	①なし		
	24丁オ	(二月十二日つき)、二月二十二日	19400212	19400222	①なし			
26	24丁ウ	二月二十八日	19400228	19400228	①なし			
	25丁オ	(二月二十八日つき)	19400228	19400228	①なし			
27	25丁ウ	(二月二十八日つき)	19400228	19400228	①なし	末尾「七月三日まで開催」6行白紙 冒頭「成すとの事」(ペン書)		
	26	丁オ	(前欠つき)、九月八日	?	19--0908	①なし		
	28	26丁ウ	(九月八日つき)	19--0908	19--0908	①なし	聖蹟作品 会津血沼、福岡難波崎	
		27丁オ	(九月八日つき)、九月五日	19--0908	19--0905	①なし	都ホテル福原氏、叡山ホテル	
	29	27丁ウ	(九月五日つき)、九月十五日	19--0905	19--0915	①なし		
		28丁オ	(九月十五日つき)	19--0915	19--0915	①なし		
	30	28丁ウ	(九月十五日つき)、九月二十二日、九月二十九日	19--0915	19--0929	①なし		
		29丁オ	十月九日	19--1009	19--1009	①なし		
	31	29丁ウ	(十月九日つき)、十月十一日	19--1009	19--1011	①なし	奉祝展下見	
		30丁オ	(十月十一日つき)、十月十六日	19--1011	19--1016	①なし	紀元二千六百年奉祝美術展出品者	
	32	30丁ウ	白紙			①なし		
		31丁オ	白紙			①なし		
	33	31丁ウ	(十月十六日つき)	19--1016	19--1016	①なし		
		32丁オ	(十月十六日つき)、十月廿三日、十月二十四日、十月廿五日	19--1016	19--1025	①なし		
	34	32丁ウ	(十月廿五日つき)	19--1025	19--1025	①なし		
		33丁オ	(十月廿五日つき)	19--1025	19--1025	①なし		
35	33丁ウ	(十月廿五日つき)、十月廿六日	19--1025	19--1026	①なし			
	34丁オ	(十月廿六日つき)、十月廿七日	19--1026	19--1027	①なし			
36	34丁ウ	白紙、貼り込み1			①なし	奉祝二千六百年聖蹟図、奉祝会へ寄贈		
	35丁オ	白紙、貼り込み2			①なし	聖蹟図18点のリスト		
37	35丁ウ	十月廿九日	19--1029	19--1029	①なし	奉祝美術展入選者発		

	36丁オ	(十月廿九日つき)、十月卅日、十月卅一日	19--1029	19--1031	①なし	都ホテル
	38 36丁ウ	(十月卅一日つき)、十一月一日	19--1031	19--1101	①なし	寄贈聖蹟園 日本橋高島屋
	37丁オ	十一月五日	19--1105	19--1105	①なし	
	39 37丁ウ	(十一月五日つき)、十一月研究会	19--1105	19--11--	①なし	
	38丁オ	(十一月研究会つき)	19--11--	19--11--	①なし	聖蹟追加作品
	40 38丁ウ	白紙、貼り込みはずれたか(表の最終行に「左の如し」とある)			①なし	
	39丁オ	十二月十三日、十二月廿四日	19--1213	19--1224	①なし	
	41 39丁ウ	(十二月廿四日つき)	19--1224	19--1224	①なし	
	40丁オ	昭和十六年一月一日	19410101	19410101	①なし	
	42 40丁ウ	(一月一日つき)、一月五日、一月六日	19410101	19410106	①なし	中村大三郎父逝去
	41丁オ	一月七日、一月八日	19410107	19410108	①なし	
	43 41丁ウ	(一月八日つき)	19410108	19410108	①なし	
	42丁オ	(一月八日つき)	19410108	19410108	①なし	
	44 42丁ウ	(一月八日つき)	19410108	19410108	①なし	
	43丁オ	(一月八日つき?)、一月十日、一月十一日	19410108	19410112	①なし	
	45 43丁ウ	(一月十二日つき)、一月十八日、一月二十四日	19410112	19410124	①なし	
	44丁オ	一月廿五日、二月拾二日、二月十三日	19410125	19410213	①なし	
	46 44丁ウ	(二月十三日つき)、二月拾五日	19410213	19410215	①なし	
	45丁オ	二月拾六日	19410216	19410216	①なし	
	47 45丁ウ	(二月拾六日つき)、二月十九日、二月廿五日	19410216	19410225	①なし	
	46丁オ	(二月廿五日つき)	19410225	19410225	①なし	
	48 46丁ウ	三月三日、三月七日	19410303	19410307	①なし	
	47丁オ	(三月七日つき)、三月九日	19410307	19410309	①なし	
	49 47丁ウ	(三月九日つき)	19410309	19410309	①なし	
	48丁オ	(三月九日つき)、三月十一日	19410309	19410311	①なし	
	50 48丁ウ	三月十二日	19410312	19410312	①なし	
	49丁オ	三月十三日、三月十九日	19410313	19410319	①なし	十六師団駐屯部隊へ 献納 慰問スケッチ
	51 49丁ウ	(三月十九日つき)	19410319	19410319	①なし	献納作品リスト
	50丁オ	(三月十九日つき)	19410319	19410319	①なし	献納作品リスト
	52 50丁ウ	三月二十三日、三月廿五日	19410323	19410325	①なし	京都画家聯盟結成の 為委員会、法隆寺方 面遠足会
	51丁オ	(三月廿五日つき)、三月廿七日	19410325	19410327	①なし	法隆寺壁画、献納の ため上京
	53 51丁ウ	四月十二日	19410412	19410412	①なし	研究会
	52丁オ	(四月十二日つき)、四月十四日、四月十五日	19410412	19410415	①なし	
	54 52丁ウ	四月二十三日、五月一日	19410423	19410501	①なし	
	53丁オ	五月二日、五月九日、五月十六日	19410502	19410516	①なし	
	55 53丁ウ	(五月十六日つき)、五月二十一日、六月一日	19410516	19410601	①なし	
	54丁オ	六月二日、六月三日	19410602	19410603	①なし	塾展秋に延期
	56 54丁ウ	六月十六日	19410616	19410616	①なし	ポスター代、印刷代
	55丁オ	七月十二日	19410712	19410712	①なし	研究会、総会
	57 55丁ウ	(七月十二日つき)	19410712	19410712	①なし	役員改選、幹事野々 内、副幹事福岡、会計 上田
	56丁オ	(七月十二日つき)、七月十五日、七月十八日	19410712	19410718	①なし	
	58 56丁ウ	(七月十八日つき)、七月廿五日	19410718	19410725	①なし	
	57丁オ	(七月廿五日つき)	19410725	19410725	①なし	
	59 57丁ウ	(七月廿五日つき)	19410725	19410725	①なし	末尾「雑談の後、十時 散会」
	58丁オ	(前欠つき)、七月一日	19-----	19--0701	②高槻町 森田紙店特製	冒頭「発表あり。塾より 御祝電」大三郎夫妻帰 洛、体調悪い←J
	60 59丁ウ	七月五日、七月七日	19--0705	19--0707	②高槻町 森田紙店特製	
	61 59丁ウ	貼り込み別紙3たみ			②高槻町 森田紙店特製	通知(七月)
	62 59丁ウ	貼り込み別紙3			②高槻町 森田紙店特製	
	63 60丁ウ	七月二十五日、七月廿六日	19--0725	19--0726	②高槻町 森田紙店特製	
	64 60丁ウ	(七月廿六日つき)	19--0726	19--0726	②高槻町 森田紙店特製	
	61丁オ	(七月廿六日つき)、七月二十七日	19--0726	19--0727	②高槻町 森田紙店特製	
	64 61丁ウ	(七月廿七日つき)	19--0727	19--0727	②高槻町 森田紙店特製	
	62丁オ	(七月廿七日つき)	19--0727	19--0727	②高槻町 森田紙店特製	
	65 62丁ウ	(七月廿七日つき)、八月一日	19--0727	19--0801	②高槻町 森田紙店特製	末尾「御納めす」
	63丁オ	(前欠か?八月一日つきか)、八月五日	? 19--0801	19--0805	②高槻町 森田紙店特製	冒頭「午後十時十六分 発にて」
	66 63丁ウ	(八月五日つき)、八月六日	19--0805	19--0806	②高槻町 森田紙店特製	末尾「上田及鍛冶が 責」→K
	64丁オ	(前欠つき)、一月六日	19-----	19--0106	②高槻町 森田紙店特製	冒頭「参、豊田屋より 果物」←J
	67 64丁ウ	(一月六日つき)	19--0106	19--0106	②高槻町 森田紙店特製	
	68 64丁ウ	貼り込み別紙4・5・6たみ			②高槻町 森田紙店特製	
	68 64丁ウ	貼り込み別紙4・5・6たみ			②高槻町 森田紙店特製	

F	69	64丁ウ				②高槻町 森田紙店特製			
		貼り込み別紙4				②高槻町 森田紙店特製	通信網		
	70	貼り込み別紙4裏				②高槻町 森田紙店特製			
		貼り込み別紙5				②高槻町 森田紙店特製	昭和十八年度予算		
	71	貼り込み別紙5裏				②高槻町 森田紙店特製			
		貼り込み別紙6				②高槻町 森田紙店特製			
	72	貼り込み別紙4・5・6たたみ				②高槻町 森田紙店特製			
		65丁オ (一月六日つき)	19-0106	19-0106		②高槻町 森田紙店特製			
	73	65丁ウ (一月六日つき)	19-0106	19-0106		②高槻町 森田紙店特製	末尾「投票の権限を与へる」		
G		66丁オ (前欠つき)、五月廿九日	19-0519	19-0519		②高槻町 森田紙店特製	冒頭「生より承はる」		
		74	65丁ウ重複			②高槻町 森田紙店特製			
			66丁オ重複			②高槻町 森田紙店特製			
			66丁ウ/貼り込み別紙7たたみ			②高槻町 森田紙店特製			
			67丁オ/貼り込み別紙8たたみ			②高槻町 森田紙店特製			
		76	66丁ウ (五月廿九日つき)、六月一日、六月十二日				②高槻町 森田紙店特製		
			67丁オ/貼り込み別紙8たたみ			②高槻町 森田紙店特製			
		77	貼り込み別紙7				②高槻町 森田紙店特製	通知 研究会(六月)	
			67丁オ/貼り込み別紙8たたみ			②高槻町 森田紙店特製			
		78	貼り込み別紙7たたみ				②高槻町 森田紙店特製		
			貼り込み別紙8				②高槻町 森田紙店特製		
H						②高槻町 森田紙店特製			
		77	67丁オ (前欠つき)	19-0509	19-0509		②高槻町 森田紙店特製	冒頭「作品を執筆する申合せを」	
		80	67丁ウ (前欠つき)、五月九日	19-0509	19-0509		②高槻町 森田紙店特製		
			68丁オ/貼り込み別紙9たたみ				②高槻町 森田紙店特製		
		81	67丁ウ				②高槻町 森田紙店特製		
			68丁オ/貼り込み別紙9				②高槻町 森田紙店特製	研究会通知(五月)	
		82	67丁ウ/貼り込み別紙9たたみ				②高槻町 森田紙店特製		
			68丁オ (五月九日つき)	19-0509	19-0509		②高槻町 森田紙店特製		
		83	68丁ウ (五月九日つき)、五月廿日	19-0509	19-0520		②高槻町 森田紙店特製		
			69丁オ/貼り込み別紙10・11たたみ				②高槻町 森田紙店特製		
		84	68丁ウ/貼り込み別紙10・11たたみ				②高槻町 森田紙店特製		
			69丁オ (五月廿日つき)、五月廿八日	19-0520	19-0528		②高槻町 森田紙店特製		
		85	68丁ウ				②高槻町 森田紙店特製		
			69丁オ/貼り込み別紙10				②高槻町 森田紙店特製		
	86	68丁ウ/貼り込み別紙11				②高槻町 森田紙店特製			
		69丁オ				②高槻町 森田紙店特製			
	87	69丁ウ (五月廿八日つき)	19-0528	19-0528		②高槻町 森田紙店特製	末尾「喜んであられたと先」→D		
I						②高槻町 森田紙店特製			
		70丁オ/貼り込み別紙12たたみ				②高槻町 森田紙店特製			
		88	69丁ウ				②高槻町 森田紙店特製		
			70丁オ/貼り込み別紙12				②高槻町 森田紙店特製	写生会通知(六月)	
		89	69丁ウ/貼り込み別紙12たたみ				②高槻町 森田紙店特製		
		70丁オ (前欠つき)	19-0627	19-0627		②高槻町 森田紙店特製	冒頭「作品 小野(くぬぎ林及石楠花		
	90	70丁ウ (前欠つき)、六月二十四日、六月二十七日	19-0627	19-0627		②高槻町 森田紙店特製	末尾「審査員任命の」→G		
						②高槻町 森田紙店特製			
		71丁オ	八月一日	19-0801	19-0801		②高槻町 森田紙店特製	冒頭「八月一日 幹事・副幹事同道」	
		91	71丁ウ	八月四日、八月十一日	19-0804	19-0811		②高槻町 森田紙店特製	
			72丁オ (八月十一日つき)、八月十三日	19-0811	19-0813		②高槻町 森田紙店特製	大三郎父初盆	
		92	72丁ウ	八月十三日つき、八月十八日	19-0813	19-0818		②高槻町 森田紙店特製	
			73丁オ (八月十八日つき)、八月廿五日	19-0818	19-0825		②高槻町 森田紙店特製		
		93	73丁ウ	八月廿五日つき、九月一日	19-0825	19-0901		②高槻町 森田紙店特製	
			74丁オ (九月一日つき)、九月八日	19-0901	19-0908		②高槻町 森田紙店特製		
		94	74丁ウ	九月八日つき	19-0908	19-0908		②高槻町 森田紙店特製	
			75丁オ (九月八日つき)、九月十二日	19-0908	19-0912		②高槻町 森田紙店特製		
		95	75丁ウ	九月十二日つき、九月廿一日	19-0912	19-0921		②高槻町 森田紙店特製	
			76丁オ (九月廿一日つき)	19-0921	19-0921		②高槻町 森田紙店特製		
		96	76丁ウ	九月二十四日	19-0924	19-0924		②高槻町 森田紙店特製	
			77丁オ (九月二十四日つき)	19-0924	19-0924		②高槻町 森田紙店特製		
		97	77丁ウ	九月二十七日	19-0927	19-0927		②高槻町 森田紙店特製	
			78丁オ (九月二十七日つき)	19-0927	19-0927		②高槻町 森田紙店特製		
		98	78丁ウ	十月三日	19-1003	19-1003		②高槻町 森田紙店特製	文展搬入
			79丁オ (十月三日つき)	19-1003	19-1003		②高槻町 森田紙店特製		
		99	79丁ウ	十月三日つき、十月四日	19-1003	19-1004		②高槻町 森田紙店特製	塾展中止の事情報告
			80丁オ (十月四日つき)	19-1004	19-1004		②高槻町 森田紙店特製		
		100	80丁ウ	十月十二日、十月十三日	19-1012	19-1013		②高槻町 森田紙店特製	
			81丁オ (十月十三日つき)、十月廿九日、十一月十二日	19-1013	19-1112		②高槻町 森田紙店特製		
		101	81丁ウ	十一月十二日つき	19-1112	19-1112		②高槻町 森田紙店特製	
		82丁オ (十一月十二日つき)、十一月十九日	19-1112	19-1119		②高槻町 森田紙店特製	西山翠嶂養子		
	102	82丁ウ	十一月廿日、十一月廿五日	19-1120	19-1125		②高槻町 森田紙店特製		
		83丁オ (十一月廿五日つき)、十二月十三日	19-1125	19-1213		②高槻町 森田紙店特製			
	103	83丁ウ	十二月十三日つき	19-1213	19-1213		②高槻町 森田紙店特製		
		84丁オ (十二月十三日つき)、十二月廿二日	19-1213	19-1222		②高槻町 森田紙店特製			
	104	84丁ウ	十二月廿二日つき、十二月廿三日、十二月廿七日	19-1222	19-1227		②高槻町 森田紙店特製		
		85丁オ (十二月廿七日つき)、昭和十七年一月元旦、一月九日	19-1227	19420109		②高槻町 森田紙店特製			
	105	85丁ウ	一月九日つき、一月十五日	19420109	19420115		②高槻町 森田紙店特製		
		86丁オ (一月十五日つき)、二月十二日	19420115	19420212		②高槻町 森田紙店特製			

福田

J	106	86丁ウ	(二月十二日つき)	19420212	19420212	②高槻町	森田紙店特製	
		87丁オ	(二月十二日つき)、二月一日	19420212	19420201	②高槻町	森田紙店特製	
	107	87丁ウ	(二月一日つき)、二月廿六日	19420201	19420226	②高槻町	森田紙店特製	
		88丁オ	(二月廿六日つき)、三月十二日	19420226	19420312	②高槻町	森田紙店特製	
	108	88丁ウ	(三月十二日つき)	19420312	19420312	②高槻町	森田紙店特製	
		89丁オ	(三月十二日つき)、四月八日、四月十三日	19420312	19420413	②高槻町	森田紙店特製	
	109	89丁ウ	(四月十三日つき)、四月廿八日	19420413	19420428	②高槻町	森田紙店特製	
		90丁オ	(四月廿八日つき)	19420428	19420428	②高槻町	森田紙店特製	
	110	90丁ウ	五月十二日	19420512	19420512	②高槻町	森田紙店特製	
		91丁オ	(五月十二日つき)	19420512	19420512	②高槻町	森田紙店特製	
	111	91丁ウ	六月十二日	19420612	19420612	②高槻町	森田紙店特製	
		92丁オ	(六月十二日つき)、六月十八日	19420612	19420618	②高槻町	森田紙店特製	
	112	92丁ウ	(六月十八日つき)、六月二十五日	19420618	19420625	②高槻町	森田紙店特製	
		93丁オ	(六月二十五日つき)、七月十二日	19420625	19420712	②高槻町	森田紙店特製	
	113	93丁ウ	(七月十二日つき)	19420712	19420712	②高槻町	森田紙店特製	
		94丁オ	(七月十二日つき)、七月十六日	19420712	19420716	②高槻町	森田紙店特製	
	114	94丁ウ	七月廿五日	19420725	19420725	②高槻町	森田紙店特製	
		95丁オ	八月五日	19420805	19420805	②高槻町	森田紙店特製	
	115	95丁ウ	八月一日、八月十日	19420801	19420810	②高槻町	森田紙店特製	
		96丁オ	(八月十日つき)、八月十一日	19420810	19420811	②高槻町	森田紙店特製	
	116	96丁ウ	(八月十一日つき)、八月十三日、八月十五日	19420811	19420815	②高槻町	森田紙店特製	
		97丁オ	八月廿日、八月廿四日	19420820	19420824	②高槻町	森田紙店特製	
	117	97丁ウ	八月廿七日、八月二十五日、九月四日	19420827	19420904	②高槻町	森田紙店特製	
		98丁オ	(九月四日つき)、九月五日、九月廿六	19420904	19420926	②高槻町	森田紙店特製	
	118	98丁ウ	(九月廿六日つき)	19420926	19420926	②高槻町	森田紙店特製	
		99丁オ	(九月廿六日つき)、十月二日	19420926	19421002	②高槻町	森田紙店特製	
	119	99丁ウ	(十月二日つき)	19421002	19421002	②高槻町	森田紙店特製	
		100丁オ	十月三日	19421003	19421003	②高槻町	森田紙店特製	
	120	100丁ウ	(十月三日つき)、十月五日、十月十二	19421003	19421012	②高槻町	森田紙店特製	
		101丁オ	(十月十二日つき)	19421012	19421012	②高槻町	森田紙店特製	
	121	101丁ウ	十月十八日、十月廿五日	19421018	19421025	②高槻町	森田紙店特製	
		102丁オ	十一月十二日	19421112	19421112	②高槻町	森田紙店特製	
	122	102丁ウ	(十一月十二日つき)、十二月一日	19421112	19421201	②高槻町	森田紙店特製	
		103丁オ	十二月八日、十二月十三日	19421208	19421213	②高槻町	森田紙店特製	
	123	103丁ウ	(十二月十三日つき)	19421213	19421213	②高槻町	森田紙店特製	
		104丁オ	(十二月十三日つき)	19421213	19421213	②高槻町	森田紙店特製	
	124	104丁ウ	十二月十四日、十二月十八日、十二月廿日、十二月廿三日	19421214	19421223	②高槻町	森田紙店特製	
		105丁オ	(十二月廿三日つき)、昭和十八年一月元旦	19421223	19430101	②高槻町	森田紙店特製	
	125	104丁ウ	十二月廿日(貼紙補訂)	19421214	19421223	②高槻町	森田紙店特製	
		105丁オ				②高槻町	森田紙店特製	
	126	105丁ウ	(昭和十八年一月元旦つき)、一月四日	19430101	19430104	②高槻町	森田紙店特製	末尾「三条大橋集合、墓」→F
		106丁オ	貼り込み別紙13たみ			②高槻町	森田紙店特製	
	127	105丁ウ	貼り込み別紙13			②高槻町	森田紙店特製	通知(昭和十八年八
	128	105丁ウ	貼り込み別紙13裏					
		106丁オ	(前欠つき)、八月八日、八月十日、八月十一日、八月廿二日	19--	19--0808			冒頭「任者としてあたる」←E
	129	107丁ウ	八月廿三日	19--0823	19--0823	③厚口 松 印		末尾「放送あり」
		108丁オ	(八月廿三日つき)、八月廿四日	19--0823	19--0824	③厚口 松 印		末尾「后後三時、先生に報告す」
	130	108丁ウ	(八月廿四日つき)、八月廿五日	19--0824	19--0825	③厚口 松 印		
		109丁オ	(八月廿五日つき)、八月卅日	19--0825	19--0830	③厚口 松 印		
	131	109丁ウ	(八月卅日つき)	19--0830	19--0830	③厚口 松 印		
		110丁オ	(八月卅日つき)、八月卅一日—九月五日、九月六日	19--0830	19--0906	③厚口 松 印		
	132	110丁ウ	(九月六日つき)	19--0906	19--0906	③厚口 松 印		
		111丁オ	(九月六日つき)	19--0906	19--0906	③厚口 松 印		
	133	111丁ウ	(九月六日つき)	19--0906	19--0906	③厚口 松 印		
		112丁オ	(九月六日つき)、九月廿五日	19--0906	19--0925	③厚口 松 印		
	134	112丁ウ	(九月廿五日つき)	19--0925	19--0925	③厚口 松 印		
		113丁オ	(九月廿五日つき)	19--0925	19--0925	③厚口 松 印		
	135	113丁ウ	(九月廿五日つき)、十月九日	19--0925	19--1009	③厚口 松 印		
		114丁オ	(十月九日つき)、十月十日	19--1009	19--1010	③厚口 松 印		
	136	114丁ウ	(十月十日つき)、十月十六日	19--1010	19--1016	③厚口 松 印		
		115丁オ	十月廿六日、十一月十九日、十一月廿	19--1026	19--1124	③厚口 松 印		
	137	115丁ウ	(十一月廿四日つき)、十二月十三日、十二月十六日	19--1124	19--1216	③厚口 松 印		
		116丁オ	(十二月十六日つき)	19--1216	19--1216	③厚口 松 印		
	138	116丁ウ	(十二月十六日つき)、十二月十七日	19--1216	19--1217	③厚口 松 印		
		117丁オ	十二月十九日、十二月廿一日、昭和十九年一月元旦	19--1219	19440101	③厚口 松 印		
	139	117丁ウ	(昭和十九年一月一日つき)	19440101	19440101	③厚口 松 印		
		118丁オ	(昭和十九年一月一日つき)、一月四日(貼紙補訂)、一月七日(貼紙で見え	19440101	19440107	③厚口 松 印		
	140	117丁ウ				③厚口 松 印		
		118丁オ	一月七日(貼紙下)	19440107		③厚口 松 印		
	141	118丁ウ	(一月七日つき)、一月十四日	19440107	19440114	③厚口 松 印		
		119丁オ	(一月十四日つき)、一月十八日、一月廿二日	19440114	19440122	③厚口 松 印		

高村

K	142	119丁ウ (一月廿二日つき)	19440122	19440122	③厚口 松 印	
		貼り込み別紙14・15たたみ			③厚口 松 印	
	143	119丁ウ			③厚口 松 印	
		貼り込み別紙14			③厚口 松 印	
	144	119丁ウ			③厚口 松 印	
		120丁オ/貼り込み別紙15			③厚口 松 印	
	145	貼り込み別紙14・15たたみ			③厚口 松 印	
		120丁オ 二月一日、二月四日、二月十二日	19440201	19440212	③厚口 松 印	
	146	120丁ウ (二月十二日つき)	19440212	19440212	③厚口 松 印	
		121丁オ/貼り込み別紙16たたみ			③厚口 松 印	
	147	120丁ウ			③厚口 松 印	
		貼り込み別紙16			③厚口 松 印	
	148	120丁ウ/貼り込み別紙16たたみ			③厚口 松 印	
		121丁オ (二月十二日つき)、二月二十一日、二月二十八日、三月九日	19440212	19440309	③厚口 松 印	
149	121丁ウ (三月九日つき)、三月十一日	19440309	19440311	③厚口 松 印		
	122丁オ (三月十一日つき)、三月十三日、三月十六日	19440311	19440316	③厚口 松 印		
150	122丁ウ (三月十六日つき)、三月十八日	19440316	19440318	③厚口 松 印		
	123丁オ (三月十八日つき)	19440318	19440318	③厚口 松 印		
151	123丁ウ 四月二日、四月九日	19440402	19440409	③厚口 松 印		
	124丁オ 四月十四日	19440414	19440414	③厚口 松 印		
152	124丁ウ (四月十四日つき)、四月十七日	19440414	19440417	③厚口 松 印		
	125丁オ (四月十七日つき)、四月廿六日、四月卅日、五月十三日	19440417	19440513	③厚口 松 印		
153	125丁ウ (五月十三日つき)	19440513	19440513	③厚口 松 印		
	126丁オ (五月十三日つき)、五月十八日	19440513	19440518	③厚口 松 印		
154	126丁ウ (五月十八日つき)、五月廿四日、六月二十六日	19440518	19440626	③厚口 松 印		
	127丁オ (六月二十六日つき)、六月二十九日	19440626	19440629	③厚口 松 印		
155	127丁ウ (六月二十九日つき)	19440629	19440629	③厚口 松 印		
	128丁オ (六月二十九日つき)、六月卅日、七月廿九日	19440629	19440729	③厚口 松 印		
156	128丁ウ (七月廿九日つき)	19440729	19440729	③厚口 松 印		
	129丁オ (七月廿九日つき)、八月一日、八月十日	19440729	19440810	③厚口 松 印		
157	129丁ウ (八月十日つき)、八月廿一日	19440810	19440821	③厚口 松 印		
	130丁オ (八月廿一日つき)、八月廿五日	19440821	19440825	③厚口 松 印		
158	130丁ウ (八月廿五日つき)、九月十日	19440825	19440910	③厚口 松 印		
	131丁オ (九月十日つき)、九月廿二日、九月廿四日	19440910	19440924	③厚口 松 印		
159	131丁ウ (九月廿四日つき)、九月廿七日、十月十日	19440924	19441010	③厚口 松 印	福田	
	132丁オ (十月十日つき)	19441010	19441010	③厚口 松 印		
160	132丁ウ (十月十日つき)、十月十三日、十月十五日	19441010	19441015	③厚口 松 印		
	133丁オ (十月十五日つき)、十月廿一日、十月卅一日	19441015	19441031	③厚口 松 印		
161	133丁ウ (十月卅一日つき)、十一月一日	19441031	19441101	③厚口 松 印		
	134丁オ (十一月一日つき)、十一月廿日、十一月廿五日、十一月廿八日	19441101	19441128	③厚口 松 印		
162	134丁ウ (十一月廿八日つき)、十一月廿四日(貼紙補訂)	19441128	19441124	③厚口 松 印		
	135丁オ (前欠)三月廿日	19--0320	19--0320	③厚口 松 印		
163	134丁ウ (十一月廿八日つき)、十二月六日(貼紙下)	19441128	19441206	③厚口 松 印		
L		135丁オ (前欠)三月廿日	19--0320	19--0320		
	164	135丁ウ (三月廿日つき)	19--0320	19--0320	①なし	
		136丁オ (三月廿日つき)、三月二十九日、四月六日	19--0320	19--0406	①なし	
	165	136丁ウ (四月六日つき)	19--0406	19--0406	①なし	
		137丁オ 四月十三日、四月二十七日	19--0406	19--0427	①なし	
	166	137丁ウ (四月二十七日つき)、五月四日、五月十一日	19--0427	19--0511	①なし	
		138丁オ (五月十一日つき)、五月十八日	19--0511	19--0518	①なし	
	167	138丁ウ (五月十八日つき)	19--0518	19--0518	①なし	
		139丁オ 五月廿九日、五月三十日	19--0518	19--0530	①なし	
	168	139丁ウ 六月十五日、六月二十一日	19--0615	19--0621	①なし	
		140丁オ (六月廿一日つき)、六月二十八日	19--0621	19--0628	①なし	
	169	140丁ウ (六月二十八日つき)、七月四日(後)	19--0628	19--0704	①なし	
		141丁オ (前欠)七月九日	19--0709	19--0709	①なし	
	170	141丁ウ (七月九日つき)、七月二十七日	19--0709	19--0727	①なし	
	142丁オ (七月二十七日つき)、八月一日	19--0727	19--0801	①なし		
171	142丁ウ (八月一日つき)、八月三日	19--0801	19--0803	①なし		
	143丁オ (八月三日つき)、八月五日、八月九日	19--0803	19--0809	①なし		
172	143丁ウ (八月九日つき)、八月十日	19--0809	19--0810	①なし		
	144丁オ (八月十日つき)、八月十七日	19--0810	19--0817	①なし		
173	144丁ウ (八月十七日つき)、八月二十四日、八月卅一日	19--0817	19--0831	①なし		
	145丁オ (八月卅一日つき)、九月七日	19--0831	19--0907	①なし		
174	145丁ウ 九月十日、九月廿八日	19--0910	19--0928	①なし		
	146丁オ (九月廿八日つき)、十月五日	19--0928	19--1005	①なし		
175	146丁ウ (十月五日つき)、十月十七日	19--1005	19--1017	①なし		
	147丁オ (十月十七日つき)、十一月	19--1017	19--11--	①なし		
176	147丁ウ (十一月研究会つき)、十二月二日	19--11--	19--1202	①なし		

	148丁オ	(十二月二日つき)、十二月三日	19--1202	19--1203	①なし	
177	148丁ウ	(十二月三日つき)、十二月十三日、十二月二十三日	19--1203	19--1223	①なし	
	149丁オ	(十二月二十三日つき)	19--1223	19--1223	①なし	
178	149丁ウ	(十二月二十三日つき)、十二月二十日(貼紙抹消跡あり)	19--1223	19--1220	①なし	
	150丁オ	(前欠つき)	19-----	19-----	①なし	
179	150丁ウ	七月廿七日	19--0727	19--0727	①なし	
	151丁オ	(七月廿七日つき)	19--0727	19--0727	①なし	
180	151丁ウ	(七月廿七日つき)、八月二日(抹消)、八月一日	19--0727	19--0801	①なし	
	152丁オ	(八月一日つき)	19--0801	19--0801	①なし	
181	152丁ウ	(八月一日つき)、八月二日、八月六日	19--0801	19--0806	①なし	叡山ホテル作品賞与
	153丁オ	(八月六日つき)	19--0806	19--0806	①なし	
182	153丁ウ	(八月六日つき)、八月十二日	19--0806	19--0812	①なし	
	154丁オ	(八月十二日つき)、八月十七日	19--0812	19--0817	①なし	
183	154丁ウ	(八月十七日つき)、八月二十日、八月二十二日	19--0817	19--0822	①なし	
	155丁オ	(八月二十二日つき)、八月廿四日、八月廿五日	19--0822	19--0825	①なし	
184	155丁ウ	(八月廿五日つき)、八月二十七日	19--0825	19--0827	①なし	
	156丁オ	(八月二十七日つき)、八月二十九日、九月一日	19--0827	19--0901	①なし	
185	156丁ウ	(九月一日つき)、九月六日	19--0901	19--0906	①なし	末尾「寸法にて受付」
	157丁オ	(前欠つき)、十二月七日、十二月十三日	19-----	19--1213		冒頭「謹写作品全部先生宅へ持参の事」
186	157丁ウ	(十二月十三日つき)、十二月十七日	19--1213	19--1217	③厚口 松 印	
	158丁オ	(十二月十七日つき)、十二月廿四日	19--1217	19--1224	③厚口 松 印	神社奉納作品の展覧会名決定
187	158丁ウ	(十二月廿四日つき)、十二月廿六日	19--1224	19--1226	③厚口 松 印	
	159丁オ	十二月廿七日	19--1227	19--1227	③厚口 松 印	
188	159丁ウ	(十二月廿七日つき)	19--1227	19--1227	③厚口 松 印	
	160丁オ	(十二月廿七日つき)、十二月廿九日、十二月卅日、十二月卅一日	19--1227	19--1231	③厚口 松 印	
189	160丁ウ	(十二月卅一日つき)	19--1231	19--1231	③厚口 松 印	
	161丁オ	昭和廿年塾誌一月一日、一月三日	19450101	19450103	③厚口 松 印	
190	161丁ウ	(一月三日つき)	19450103	19450103	③厚口 松 印	
	162丁オ	(一月三日つき)、一月四日	19450103	19450104	③厚口 松 印	大東亜戦争必勝祈願神宮並に官幣社奉納日本画展覧会初日
191	162丁ウ	(一月四日つき)	19450104	19450104	③厚口 松 印	
	163丁オ	(一月四日つき)、一月十一日	19450104	19450111	③厚口 松 印	
192	163丁ウ	一月十二日、一月十四日	19450112	19450114	③厚口 松 印	
	164丁オ	(一月十四日つき)、一月十六日	19450114	19450116	③厚口 松 印	
193	164丁ウ	(一月十六日つき)、一月十七日	19450116	19450117	③厚口 松 印	
	165丁オ	(一月十七日つき)、一月廿四日、一月廿九日	19450117	19450129	③厚口 松 印	
194	165丁ウ	(一月廿九日つき)、一月卅日	19450129	19450130	③厚口 松 印	
	166丁オ	(一月卅日つき)、二月日	19450130	194502--	③厚口 松 印	
195	166丁ウ	(二月日つき)、二月廿四日	194502--	19450224	③厚口 松 印	
	167丁オ	三月日、四月五日	194503--	19450405	③厚口 松 印	
196	167丁ウ	(四月五日つき)、四月十二日	19450405	19450412	③厚口 松 印	
	168丁オ	(四月十二日つき)、四月十六日、四月十八日	19450412	19450418	③厚口 松 印	
197	168丁ウ	(四月十八日つき)	19450418	19450418	③厚口 松 印	
	169丁オ	(四月十八日つき)	19450418	19450418	③厚口 松 印	
198	169丁ウ	(四月十八日つき)	19450418	19450418	③厚口 松 印	
	170丁オ	(四月十八日つき)、四月十九日	19450418	19450419	③厚口 松 印	
199	170丁ウ	(四月十九日つき)、五月八日	19450419	19450508	③厚口 松 印	
	171丁オ	(五月八日つき)	19450508	19450508	③厚口 松 印	
200	171丁ウ	(白紙)			③厚口 松 印	
	172丁オ	廿年度記録(終戦後)十二月十三日	19451213	19451213	③厚口 松 印	
201	172丁ウ	(十二月十三日つき)、十二月三十日	19451213	19451230	③厚口 松 印	
	173丁オ	(十二月三十日つき)、三十一日	19451230	19451231	③厚口 松 印	
202	173丁ウ	(白紙)			③厚口 松 印	
	174丁オ	廿一年度記録一月一日、一月七日	19460101	19460107	③厚口 松 印	
203	174丁ウ	(一月七日つき)	19460107	19460107	③厚口 松 印	
	175丁オ	三月十二日	19460312	19460312	③厚口 松 印	
204	175丁ウ	四月研究会八市展ノ為メ中止、五月十三日、六月十二日	19460513	19460612	③厚口 松 印	
	176丁オ	(六月十二日つき)	19460612		③厚口 松 印	
205	176丁ウ	(白紙)			③厚口 松 印	